

平成 28 年度 飯豊町遺跡発掘調査報告書(2)

飯豊町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第 6 集



2017年
飯豊町教育委員会



序

本書は飯豊町教育委員会が平成28年度に実施した町内遺跡発掘調査事業の成果を報告するものです。本年度は埋蔵文化財行政の推進を目的として国庫補助を受け、飯豊町内の遺跡の分布調査を実施しました。

飯豊町には70か所を超える埋蔵文化財包蔵地が登録されており、縄文時代を中心に各時代の遺跡が所在しています。特に当地は中世に長井氏・伊達氏の支配地域であったことから、中世の城館跡が多数みられます。

飯豊町ではこのような文化財を活用した事業を進めており、埋蔵文化財についても分布調査を行うことで、埋蔵文化財の把握と記録、町内外への情報の発信、活用を進める取組みを行っています。今年度は、萩生地区の萩生城跡周辺および手ノ子地区の宇津峠周辺の分布調査を実施しました。

埋蔵文化財は、私たちの祖先が長い歴史の中で創造してきた貴重な地域財産です。この財産を大切に保護するとともに、そこから歴史を学び子孫へ伝えることが現代に生きる私たちの責務だと考えます。今後、本書が文化財の保護活動、学術研究、教育活動等に役立つことになれば幸いです。

最後に当調査にご支援ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

平成29年3月

飯豊町教育委員会

教育長 熊野 昌昭

例 言

- 1 本書は、飯豊町教育委員会が国庫補助を受けて実施した町内遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 事業期間は平成28年4月1日から平成29年3月31日までである。
- 3 調査体制は次のとおりである。
調査主体 飯豊町教育委員会
発掘調査・資料整理担当者
調査員 高橋拓（社会教育課生涯学習振興室 主事）
発掘作業員 伊藤憲之、佐藤節夫、鈴木春男、鈴木昌利、高橋純、土屋秋夫、秦昭繁、平山森司、船山健信（五十音順）
整理作業員 五十嵐結、寺島優花、山崎茜音（五十音順）
事務局 飯豊町教育委員会社会教育課生涯学習振興室
宇津木耕一（社会教育課課長）
後藤圭一（社会教育課生涯学習振興室室長）
伊藤敏英（社会教育課生涯学習振興室主査）
- 4 調査並びに報告書作成にあたり、次の方々にご指導ご協力をいただきました。ここに記して感謝を申し上げます。（五十音順、敬称略）
奥山和浩、片桐天山、木村勝男、坂井正人、斗叶冬樹、松本雄一、八嶋和子、Karina Horna、山形大学人文学部、山形県教育庁文化財生涯学習課
- 5 報告書の編集・執筆・写真撮影・挿図は高橋拓が担当した。

凡 例

- 1 本報告書の遺構図中の用例は以下のとおりである。
 - (1) 図中の方位記号が指し示す方向が磁北を示す。
 - (2) 図中の水系はすべて海拔高度を示す。
 - (3) 縮尺率はそれぞれ図中に示した。
- 2 本報告書の遺物の実測図中の用例は以下のとおりである。
 - (1) 原則は1/4で採録し、各々にスケールを付した。
 - (2) 遺物番号は、遺物図版・写真図版ともに共通のものとした。
- 3 遺構の写真図版については任意の縮尺とした。
- 4 土層の色調に関しては小山正忠・竹原秀雄編著『標準土色帳』（日本色研株式会社、1967年）を基準に視認している。
- 5 本書でを使用した遺構・遺物を指し示す略号は以下の通りである。

P…柱穴 SK…土壙 SW…河川跡 C…土器、陶磁器 S…石、石器 W…木

目次

1. 分布調査		3-4. 手ノ子地区におけるトレンチ調査の結果…18
1-1. 調査の目的……………	1	3-4-1. 宇津明神跡周辺の調査……………18
1-2. 調査地点……………	1	Aトレンチ
		Bトレンチ
		Cトレンチ
		Dトレンチ
		Eトレンチ
		宇津明神跡周辺の調査結果
2. 萩生地区 萩生城周辺の分布調査		3-4-2. 介茶屋跡周辺の調査……………19
2-1. 調査の経緯……………	2	トレンチ1
2-2. 遺跡の環境……………	2	トレンチ2
2-3. 歴史的環境……………	2	トレンチ3
2-4. 調査の経過……………	3	トレンチ4
2-5. トレンチ調査の結果……………	3	トレンチ5
2-5-1. 推定本丸周辺の調査		トレンチ6
Jトレンチ		トレンチ7
Kトレンチ		トレンチ8
Lトレンチ		トレンチ9
Mトレンチ		介茶屋跡周辺の調査結果
Nトレンチ		
Oトレンチ		
2-5-2. 推定二ノ丸周辺の調査		3-4-3. 近世・近代道のトレンチ調査……………20
二ノ丸トレンチ1		トレンチ1
二ノ丸トレンチ2		トレンチ2
2-6. 炭素年代測定の結果……………	5	トレンチ3
2-7. 調査結果……………	6	トレンチ4
		トレンチ5
3. 手ノ子地区 宇津峠周辺の分布調査		近世・近代道のトレンチ調査結果
3-1. 調査の経緯……………	16	
3-2. 歴史的環境・地理的環境……………	16	
3-3. 調査の経過……………	17	

挿図目次

図1	飯豊町北部遺跡地図	2
図2	萩生城周辺トレンチ配置図	8
図3	Jトレンチ平・断面図	9
図4	Kトレンチ平・断面図	10
図5	L・Nトレンチ平・断面図	11
図6	Mトレンチ平・断面図	12
図7	Oトレンチ平・断面図	13
図8	二ノ丸周辺トレンチ平・断面図	14
図9	飯豊町西部遺跡地図	16
図10	手ノ子地区におけるトレンチ調査の調査区	23
図11	宇津明神周辺トレンチ配置図	24
図12	宇津明神跡周辺トレンチ断面図	25
図13	介茶屋跡周辺トレンチ配置図	26
図14	介茶屋跡周辺トレンチ断面図	27
図15	宇津峠近代道トレンチ配置図	28
図16	宇津峠近世道トレンチ配置図	29
図17	宇津峠近世道・近代道 トレンチ断面図(1)	30
図18	宇津峠近世道・近代道 トレンチ断面図(2)	31

表目次

表1	飯豊町北部遺跡一覧	2
表2	炭素年代測定資料の一覧	15
表3	炭素年代測定の結果	15
表4	飯豊町西部遺跡一覧	16

写真図版

写真図版1	萩生城周辺の分布調査	33
写真図版2	萩生城周辺の分布調査	34
写真図版3	萩生城周辺の分布調査	35
写真図版4	萩生城周辺の分布調査	36
写真図版5	宇津峠周辺の分布調査	37
写真図版6	宇津峠周辺の分布調査	38
写真図版7	宇津峠周辺の分布調査	39

1. 分布調査

1-1. 調査の目的

近年、飯豊町では遺跡の所在地周辺で開発が行われる可能性が高まっている。本町では74ヶ所の遺跡が確認されているが、そのほとんどが表面踏査によるもので、また周知されていない遺跡の存在も多数予測されている。

このようなことから飯豊町としては、周知の遺跡については遺跡の詳細を明らかにし、また未周知の遺跡についてはその存在を確認することで遺跡台帳の整備をすすめ、今後起こり得る開発行為に対処する必要があると考えている。よって遺跡台帳に反映させるデータを得る目的で、平成27年度に引き続き、平成28年度も遺跡の詳細分布調査を実施した。

埋蔵文化財包蔵地及び遺跡可能性地について踏査・試掘調査を行い、遺跡の有無・範囲・性格など、内容を明らかにする調査を実施した。この調査によって得られた成果は、今後各種開発計画との調整に役立ち、遺跡の保護・保存のために活用されるものである。なお今年度遺跡詳細分布調査を行った地点は以下の2箇所である。

1-2. 調査地点

(1) 萩生地区 山形県西置賜郡飯豊町大字萩生1380-3

萩生城周辺調査地点とした。小規模なトレンチによる試掘をもとに遺構の有無、または残存状況を確認した。この調査によって遺跡台帳の情報整理を行う。

(2) 手ノ子地区 山形県西置賜郡飯豊町大字手ノ子

山形県置賜地方と新潟県を繋ぐ十三峠街道の内、当地に所在する宇津峠の古道周辺において、古道の残存状況と周辺遺跡の存在を確認した。この調査によって、遺跡台帳の情報整理を行う。



萩生城本丸土塁



宇津峠踏査風景



萩生城本丸調査風景



近代道調査風景

2. 萩生地区 萩生城周辺の分布調査

2-1. 調査の経緯

飯豊町の萩生地区では、地域活性化を目的とした萩生地区整備計画が企画されている。この計画は、萩生地区協議会によって企画されているもので、町指定の史跡「萩生城跡」を歴史公園として整備する城址公園整備計画を含んでいる。この計画の実施は未定であるが、今後萩生城跡に関わる埋蔵文化財との兼ね合いが課題となる可能性が高く、このような状況に対して平成27年度に萩生城跡周辺の遺跡・遺構・遺物の分布状況を確認する調査を実施した。当地では現在も土塁や掘跡といった城館を構成する遺構が地上に確認できるが、コミュニティセンターや寺院の建設、ゲートボール場と遊具を備えた公園の整備、また土塁に散歩道や墓石が設置されている状況から遺構の大部分は破壊されていることが予想されていた。しかし平成27年度の調査によって古い層序がそのまま残っていることが確認でき、その層に遺構らしき痕跡を検出することができた。よって平成28年度は遺跡の残存状況を把握する分布調査を実施した。本調査の実施によって、今後整備計画が進展し、開発が行われることになった場合、調整に有効なデータを遺跡台帳に提示することができる。

2-2. 遺跡の環境

調査地区は飯豊町の北東部、萩生川流域に位置する萩生地区である。萩生城跡は萩生川の左岸に広がる扇状地の扇端の微高地に築かれた平城で、明治8（1875）年の地籍図からは、主郭部と二ノ丸で構成される複郭式の平城と、それを中心とした城下町的な町割りがあったと推測されている。主郭部とされている領域は南北145m、東西77m、面積は約11,165㎡と大規模なもので、当城跡は飯豊町内における代表的な中世城館遺跡だといえる。周辺に所在する縄文時代中期末の萩生石箱遺跡では昭和55（1980）年に発掘調査が実施されており、縄文土器に混じって中世陶器が出土している。このようなことから当地には広域に中世遺跡が広がっていることも推測される。

2-3. 歴史的環境

調査地に所在する萩生城は、伊達氏の家臣であった国分氏の居城だと伝わっている。伊達氏が置賜地方を攻略した天授6（1380）年頃に萩生

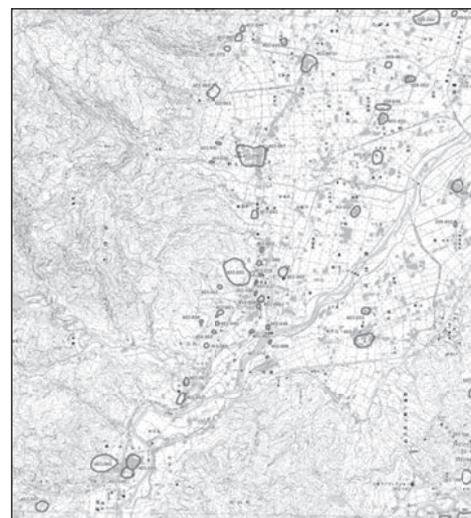


図1 飯豊町北部遺跡地区

遺跡番号	遺跡名	年代
403-001	中村館	
403-002	契約壇遺跡	縄文中期
403-003	野山Ⅰ遺跡	縄文時代
403-005	沼之尻遺跡	縄文時代
403-006	堰場遺跡	縄文晩期
403-007	台の上遺跡	縄文時代中期
403-008	郡の袖南遺跡	縄文時代
403-014	町下遺跡	縄文時代 不明
403-032	長者原遺跡	縄文時代
403-033	添川古館	
403-034	添川館	
403-035	黒沢中館	
403-036	柳沢B遺跡	縄文時代
403-037	裏山Ⅱ遺跡	縄文晩期
403-039	裏山Ⅲ遺跡	縄文時代
403-040	野山Ⅲ遺跡	縄文時代
403-041	才先林遺跡	縄文前期
403-042	横山遺跡	縄文前中期
403-043	館の宮	
403-044	野山Ⅱ遺跡	縄文前期？
403-045	中村荒館	
403-046	中川原遺跡	縄文時代中期、後期
403-048	下野遺跡	縄文中期
403-049	手ノ子南館	
403-050	柳沢A遺跡	縄文時代後期、中期
403-052	黒沢館	
403-053	椿館	
403-054	黒沢南館	
403-055	野山Ⅳ遺跡	縄文時代
403-056	萩生城	
403-057	館ノ越	
403-058	裏山Ⅰ遺跡	縄文晩期
403-059	町屋敷	
403-060	手ノ子西館	
403-061	野山Ⅴ遺跡	縄文中期？
403-063	観音堂遺跡	縄文時代
403-065	天養寺館	
403-066	上野遺跡	縄文時代
403-067	石箱遺跡	縄文時代後期、中期、古代（平安）
403-068	新山遺跡	縄文時代
403-069	椿古館	
403-070	剣堂遺跡	縄文時代後期、中期、大木9古
403-072	椿焼裏山窯跡	近世

表1 飯豊町北部遺跡一覧

国分氏の初代「国分政信」が築城したという。国分氏は、伊達政宗から嘉慶2（1388）年に長井庄萩生郷に知行配分を受けているが、応永9（1402）年には刈田郡平沢郷、またその後は伊達信夫郡・最上郡など、広域に所領を拡大していることや、永正6（1509）年に伊達尚宗の軍勢催促の命を受けた国分平五郎胤重が、下長井の被官衆に独自に回状を発していることから、自立性の高い国人領主であったと考えられている。

萩生城は天正19（1591）年に伊達政宗が岩手山に移封すると、当時の萩生国分氏の当主であった国分信行がこれに従ったため廃城になったといわれている。しかし萩生国分氏の一部が萩生の地に残っていることや、蒲生時代には赤座八右衛門という人物が萩生城主となったともいわれていることから、廃城の時期については検討が必要である。一国一城令が制定された慶長20（1615）年には間違いなく廃城したと考えたい。その後、明治14（1881）年に萩生小学校が建設され、昭和48（1973）年に閉校するまで5回にわたり校舎の増築・改造が行われた。閉校後はコミュニティセンターが建設され、すでに閉鎖されているが建物は残っている。

二ノ丸だと考えられている地点には、現在、成就院廻向山恩徳寺が所在する。恩徳寺はもともと同町内の山王原という場所に建っていたが、応永年中（1394～1427年）、国分光信の代に祈願所として現在の場所に移されたといわれている。

2-4. 調査の経過

2016年6月15日～16日 萩生城本丸周辺試掘調査
2016年6月22日 萩生城本丸周辺試掘調査、実測作業
2016年6月29日 萩生城本丸周辺試掘調査、写真記録
2016年7月14日 実測作業、写真記録
2016年7月15日 萩生城本丸周辺試掘調査
2016年7月19日～22日 萩生城本丸周辺試掘調査、実測作業、写真記録
2016年7月29日 萩生城二の丸周辺試掘調査
2016年8月4日 萩生城二の丸周辺試掘調査
2016年8月9日 萩生城二の丸周辺試掘調査
2016年8月12日～13日 萩生城二の丸周辺試掘調査、実測作業、写真記録
2016年9月8日 トレンチ内精査
2016年9月10日 町民向け調査説明会
2016年10月12日 議会向け調査説明会
2016年10月25日 埋戻し、安全確保作業
2016年11月～2017年2月 報告書作成

2-5. トレンチ調査の結果（図2）

遺跡の有無、遺構の残存状況の確認、その範囲確定のため、推定本丸地点に6か所、推定二ノ丸地点に2か所、計8か所のトレンチを設定して調査を実施した。

2-5-1. 推定本丸周辺の調査

・Jトレンチ（図3）

Jトレンチは萩生城本丸と考えられている区画の現在は使用を中止したゲートボール場内に設定した。東西方向の

幅100cm、長さ1710cmのトレンチである。1層は山砂層でゲートボール場のための盛土である。11層は河原石を多量に含むグライ化した砂層である。地元古老たちから萩生小学校があった時期、子供達に近隣の野川から河原の砂を運ばせてグラウンドの整備を行っていたと聞くことができた。この情報から11層は萩生小学校が廃校になった時点のグラウンドの表面だと想定することができた。3・11層を切る7層には周辺の電燈の電線が埋設されていた。またビニール・針金などの現代ゴミが混入している。Lトレンチの11層につながる。同じく3層を切る2層にも丸くぎが混じる。4～6層は砂層で、粒子の大きさの異なる砂がレンズ状、また互層に堆積する。ここから河川（SW-1）の水性堆積であることが想定できる。8層は均質なシルト質で地山だと判断する。地山である8層の下に大きな礫で構成される16層があるが、これは古い河川跡（SW-2）だと判断する。8層を切る12層・13層・15層の覆土は地山由来のブロックを含むことから人為的な遺構だと想定する。ただし当トレンチでは、地山の上に遺構検出面を確認することができない。ここから当トレンチ周辺では、ある時期に遺構検出面が破壊されたことが想定される。

・ Kトレンチ (図4)

KトレンチはJトレンチの東、同じくゲートボール場の中に設定したトレンチである。東西方向の幅100cm、長さ910cmのトレンチである。1層と2層はJトレンチの1層と11層に相当する。また層序から3層の上面が明治期に小学校が立てられた時期の地表面だと推測する。ただしその下に明確な生活面が確認できないことから、当地点が中世の萩生城内であるならば、3層上面は明治以前、中近世から同じく生活面であった可能性も考えられる。7層は均質なシルト層で地山に相当する。

SK-1、P5は3層上面から掘り込まれる遺構である。SK-1からは石が出土した。板状の形態と遺構の底に設置された状況から礎石と考えたい。P5は抜取り痕が見られる柱穴である。またP1・P2付近からは角釘が出土した。

・ Lトレンチ (図5)

Lトレンチも同じくゲートボールグラウンド内に設定した南北方向の幅100cm、長さ1330cmのトレンチである。1層は山砂の盛土層である。J、Kトレンチに見られた萩生小学校が廃校になった時点のグラウンドの表面の砂層が確認できない。様相は異なるがレベル的に2層の上面が萩生小学校廃校時グラウンドの表面だと推察する。9、13、17～19層は地山である。10、11、14、15層は近現代の遺構だと推測する。SK-1は全形を確認することはできなかったが大形で方形の遺構である。12層がSK-1の覆土にあたる。12層から多量に出土する炭化物について放射性炭素年代測定を行ったところ68.3%の確率で15世紀の中葉～16世紀前葉の数値が出ている。

・ Mトレンチ (図6)

MトレンチはLトレンチの北側に設定した南北方向の幅100cm、長さ1610cmのトレンチである。1～3層はゲートボール場のための山砂を中心とした盛土層である。3～5層に発砲スチロールなどの現代ゴミが確認できる。ゲートボール場の盛土の際に混入したと考える。5層上面が萩生小学校廃校時グラウンドの地表面、6層上面が明治期に小学校が立てられた時期の地表面だと推測する。8層からは明確な遺構が確認できる。遺構確認面としたい。Mトレンチ内で23個のピットを検出した。半裁によって、一程度の深さを有し明確な柱の抜取り痕を呈するピットが確認できた。P1、P4、P7、P10などは特徴が類似しており、同じ掘立柱建物を構成する柱穴となる可能性が高い。遺構からは、多量の炭化物、焼土塊、角釘などが出土する。またP3からは小さいが漆器の皮膜が出土している。P1とP7から出土した炭化物について放射性炭素年代測定を行ったところ、P1は76.2%の確率で15世紀末～17世紀初頭、P7は50.1%の確率で16世紀中葉～17世紀前葉、45.3%の確率で15世紀の中葉～16世紀の前葉のデータが出ている。

・Nトレンチ (図5)

Nトレンチは萩生城本丸と考えられている区画の東端に設定した幅100cm、長さ450cmのトレンチである。本丸の領域を確認するために設定した。1～4層は現代の盛土層である。4層からはビニール紐やガラス片が出土する。地形的に当地の東側の土地が一段低くなっており4層は現代に平場を拡張する目的で、当地から西側の低所に向かって落とし込んだゴミ混じりの盛土だと想定する。8層は他トレンチの遺構確認面に類似した土質であり、この層が萩生城当時の地表面だと想定される。8層を含む5～11層は東側に向かって傾斜して堆積しており、これらの層が構成する斜面が本丸の端部となる可能性が高い。12層は円磨度の高い礫層で、古い河川跡だと推測する。

・Oトレンチ (図7)

OトレンチはMトレンチの西側に設定した南北方向の幅100cm、長さ1300cmのトレンチである。1～3層はゲートボール場のための山砂を中心とした盛土層である。2～3層は現代ゴミを含む。13層が地山である。4、5、6、9、10、11層は礫や砂を中心とする水性の堆積層である。JトレンチのSW-1に連続する河川跡のものだと判断する。遺構確認面となる8層にはP1～P6までのピットが検出できており、Mトレンチの柱穴群が広がりを見せることが把握できる。

2-5-2. 推定二ノ丸周辺の調査

・二ノ丸トレンチ1 (図8)

二ノ丸トレンチ1は恩徳寺の北側、土塁だとみられる土の高まりに南北方向に幅100cm、長さ490cmで設定したトレンチである。1層は落ち葉と雑草による腐植土層である。1層にはビニールなど近・現代のゴミが含まれる。2層は礫混じりの土層。3層は円磨度の高い10～20cm大の礫が40～50cm厚で堆積する層である。4層は礫を含む土層である。炭化物を含むことから人為的な盛土層であることが想定される。5層は4層に比べて小ぶりの礫を含む褐色土層で、6層由来とみられる黒色土を含むことから人為的な盛土層だと想定できる。6層は約10cm厚で堆積する黒色土層で上面付近に炭化物がみられる。7層は地山だと推測する。近・現代のゴミが含まれるのは1層のみで2層以下では出土しない。礫が丘状に堆積している状況や、4層内と6層の上面に炭化物が含まれる状況から、2～5層は人為的な盛土層であると推測できる。自然堆積層である6層の上に盛土がなされたとみられる。このような結果から、当地点は人為的に構築された萩生城の土塁であると判断できる。堆積状況から2層が土塁の表面を構成したことが想定される。また土塁が構築される前に生活面だったと考えられる6層の上面からピットが検出された。中から焼土塊が多数出土している。

・二ノ丸トレンチ2 (図8)

二ノ丸トレンチ2は恩徳寺の南側、土塁とみられる土の高まりが現在は破壊されている地点の近くに東西方向、幅100cm、長さ294cmで設定したトレンチである。基本的にはトレンチ1と同様の土層であるが、比較的2層が厚く堆積する特徴がある。

2-6. 炭素年代測定の結果 (表2・3)

当遺跡の年代測定を実施するためLトレンチのSK-1、MトレンチのP1とP7、二ノ丸トレンチ1の6層から炭化物を採取し、山形大学 (YU-MSYグループ) に試料の年代測定を依頼した。試料の一覧を表2に、その結果を表3に提示した。

2-7. 調査結果

当地は地表面に堀跡・土塁と思しき痕跡が残ることから、長年城跡として認識されてきた土地である。平成27～28年度の分布調査によって、これらの痕跡は人為的に構築した遺構であることが確認できた。土塁については、平成27年度の本丸土塁に対する調査の結果、表面に礫が露出するような特殊な土塁となる可能性も提示していたが、今年度の二ノ丸土塁の調査によって、礫混じりの土層が表面を覆っている状況が確認できた。おそらく本丸土塁の表面は破壊されていたのだろう。

また二ノ丸土塁の下で確認された生活面にピット（P1）が検出できた。つまり当地では萩生城が建設される前から、人間の生活活動が行われていたことが予測できた。特にP1から出土した焼土からは、火を用いた生産活動が行われていたことも推測できる。P1を検出した生活面から採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果、95.4%の確率で1158～1247年の間の試料であることがわかった。このデータも伝承として伝わる14世紀後葉という萩生城の建設年代よりも古い数値となる。

本丸とされる領域の地中からは多数の遺構が確認できた。配置や断面からその一部は掘立柱建物を構成する可能性が高いと判断する。この建物が領主の館であるかどうかは不明であるが、萩生城に関わる建物跡の可能性は高い。遺構内部から採取した炭化物の放射性炭素年代測定の結果は15世紀中葉～17世紀中葉のもので、建設伝承の14世紀後葉よりは新しい数値ではあるが、当地を国分氏が所領していた時期の年代に当てはまる。おそらく国分氏が萩生を所領したのは14世紀の後葉であったが、萩生城の建設は15世紀中葉以降であった、ということではないだろうか。またこれらの遺構や遺構検出面には多量の炭化物、焼土が確認できた。焼土を洗浄したところ、竹のような植物素材を組み合わせた骨組に押し付けた粘土であることが理解できた。これは建物を構成する土壁とその中のコマ（骨組）の痕だと判断する。焼土と炭化物はそれらが焼けた痕跡である。おそらく萩生城では、ある時期に火災によって建物が焼け落ちたと考えることができる。廃城の際に意図的に焼き払ったことも想定できるだろう。

遺物としては年代を検討できるものは出土しなかった。萩生城に関わりそうな遺物は前述した土壁の破片、鉄の角釘に加えてきわめて小さな漆の皮膜だけである。また近世陶磁器の出土はなく近・現代の遺物が出土する。当地の旧所有者からの聞き取りによれば、明治14（1881）年に萩生小学校が建設される前は、当地は桑畑として利用していたと伝えられている。今年度の調査における遺物の出土状況は近世段階に屋敷地など、生活遺物が廃棄される状況で利用されていなかったことを証明する。このような状況が萩生城に関わる中世の遺構を現在まで残すことができた理由だと考えられる。

参考文献

- 高橋堅治「国分氏と萩生城址」（『置賜文化』19号、1958年）
- 田林二郎「国分氏雑考」（『いいで史話』第六号、1968年10月）
- 田林二郎「地名考「萩生」」（『いいで史話』第七号、1969年11月）
- 田林二郎「とやしき」（『いいで史話』第八号、1970年12月）
- 田林二郎「国分氏に関する史料」（『いいで史話』第九号、1971年3月）
- 萩生小学校百周年編集委員会『萩生小学校百年史』（萩生小学校百周年記念事業協賛会、1974年4月）
- 渋谷敏巳「伊達氏の領国支配の強化と諸役特権—『晴宗公采地下賜録』にみる置賜地方を中心として—」（『山形史学研究』第十五号、1979年4月）
- 渋谷敏巳『戦国期伊達領国下の郷村制の変化と「村」の成立について—置賜地方の場合〈資料篇〉—』（昭和五十三年度山形県長期研修報告並びに同年度文部省奨励研究（B）による研究報告山形県、1979年3月）
- 飯豊町教育委員会『山形県飯豊町萩生石箱遺跡—第一次発掘調査報告—』（飯豊町教育委員会、1980年3月）
- 井上武夫「萩生城址本丸築堤水堀跡」（『飯豊史話』第十二号、1980年8月）

井上俊雄「飯豊町の中世史」『町史の窓＜中間報告＞①』（飯豊町史編さん委員会、1982年2月）
山形県「第十三章第一節 伊達氏の隆盛と陸奥国守護職」『山形県史 第一巻』（山形県、1982年3月）
竹田市太郎「長井市の中世における地頭・在家について」『町史の窓＜中間報告＞②』（飯豊町史編さん委員会、1984年2月）
飯豊町史編纂委員会「第4章第4節 飯豊の在地領主」『飯豊町史・上』（飯豊町、1986年3月）
飯豊町教育委員会「萩生城址と国分氏」『飯豊町の歴史散歩』（飯豊町教育委員会、1988年3月）
飯豊町教育委員会「萩生城址本丸・土塁・水濠」『飯豊町の文化財』（飯豊町教育委員会、1989年1月）
後藤正浩「城下町萩生の移り変わり」（『いいで史話』第20号、1992年3月）
後藤正浩「萩生城址について」（『山形県地域紙研究』19号、1994年）
山形県教育委員会『山形県中世城館遺跡調査報告書 第1集（置賜地域）』（山形県教育委員会、1995年3月）
齋藤潤「新収資料・国分家資料について」（『仙台市博物館調査研究報告』第20号、2000年3月）
保角里志『南出羽の城』（高志書院、2006年4月）
保角里志「置賜地方の城」（『歴史と考古』第五号、2007年6月）
山口久男「萩生城と城主国分氏」（『飯豊史話』36号、2008年3月）
大富國雄「飯豊町の「館」に関する考察（その二）」（『飯豊史話』37号、2009年3月）
梅津昌平「萩生城下の豪族聚落」（『いいで史話』第39号、2011年3月）
大富國雄「飯豊町の館に関する考察（その三）」（『飯豊史話』第40号、2012年3月）
菅野正道「伊達家の家臣たち〔萩生国分氏を中心として〕」（『歴史と考古』第十号、2012年6月）
長岡實「伝説の心—主観的恩徳寺—」（『飯豊史話』第40号、2012年3月）
山口久男「萩生城の創建と萩生街の変遷」（『いいで史話』第44号、2016年3月）
飯豊町教育委員会『平成27年度飯豊町遺跡発掘調査報告書（1）』（飯豊町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第5集、2016年3月）

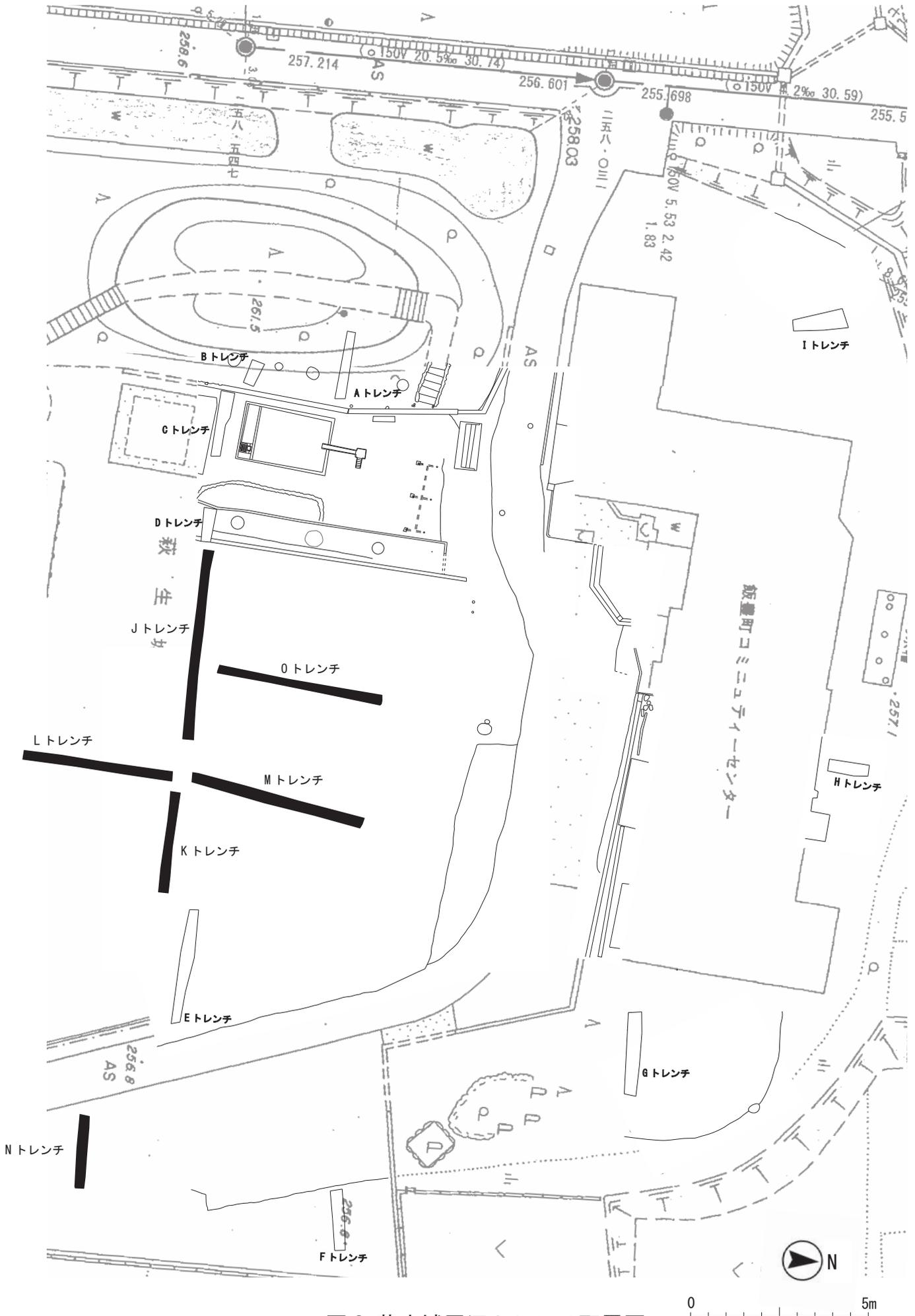
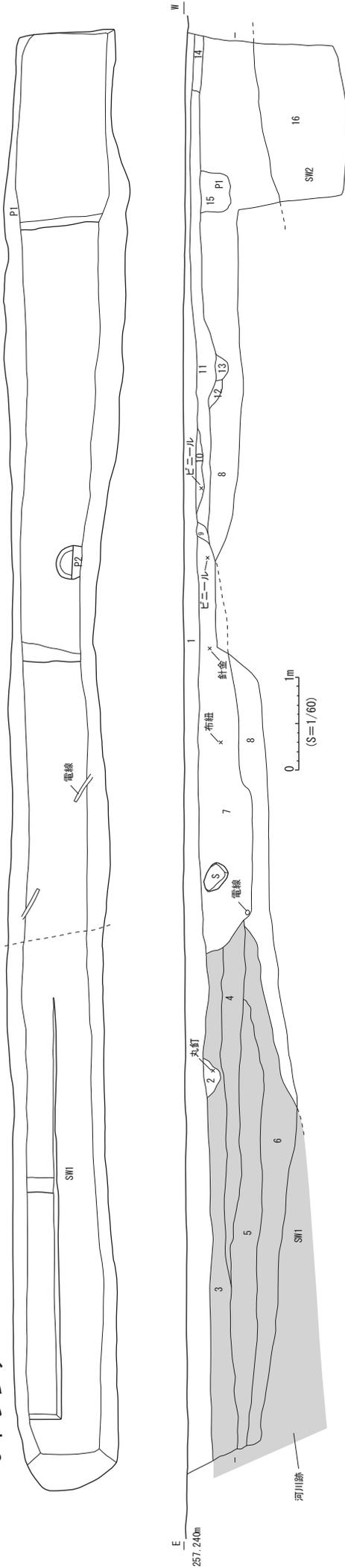


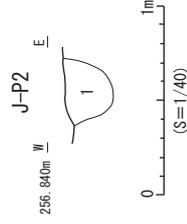
図2 萩生城周辺トレンチ配置図

Jトレンチ



Jトレンチ注記

- | | | | |
|-------------|-----|---|-----|
| 土色 | しまり | 土質 | しまり |
| 1. 10YR4/6 | 有 | 山砂。10YR5/6砂と混ざる。グラウンドの整地層。 | 有 |
| 2. 10YR2/1 | 有 | 直径10cm大の礫を多量含む。丸釘出土。 | 有 |
| 3. 10YR2/1 | 有 | 直径1~5cm大の礫を含む。 | 有 |
| 4. 10YR2/3 | 有 | 直径1~3cm大の礫を含む。 | 有 |
| 5. 10YR4/4 | 無 | 10YR2/2砂が互層に堆積する。 | 有 |
| 6. 10YR4/4 | 有 | 直径1~30cm大の礫を多量含む。 | 有 |
| 7. 10YR3/2 | 有 | 直径3~40cm大の礫を含む。直径1~8cm大の10YR1.7/1粘土ブロックを多量含む。 | 有 |
| 8. 10YR4/6 | 有 | 地山由来の直径1~3cm大の10YR4/6シルトブロックを多量含む。針金、電線、布などの現代ゴミを含む。 | 有 |
| 9. 10YR2/2 | 有 | 均質。地山。 | 有 |
| 10. 10YR2/1 | 有 | 地山由来の直径3cm大の10YR4/6シルトブロックを多量含む。 | 有 |
| 11. 10YR2/2 | 有 | 直径1~8cm大の礫を含む。ビニールを含む。 | 有 |
| 12. 10YR2/2 | 有 | 地山由来の直径3cm大の10YR4/6シルトブロック少量含む。 | 有 |
| 13. 10YR2/2 | 有 | 地山由来の直径1~5cm大の10YR4/6シルトブロックを多量含む。 | 有 |
| 14. 10YR3/3 | 有 | 炭化物少量含む。地山由来の直径1~3cm大の10YR4/6シルトブロックを含む。 | 有 |
| 15. 10YR2/2 | 有 | 山砂か。直径1~5cm大の礫を少量含む。 | 有 |
| 16. - | 無 | 地山由来の直径3cm大の10YR4/6シルトブロックを含む。旧河川跡か。礫間に10YR4/6シルトを含む。 | 有 |

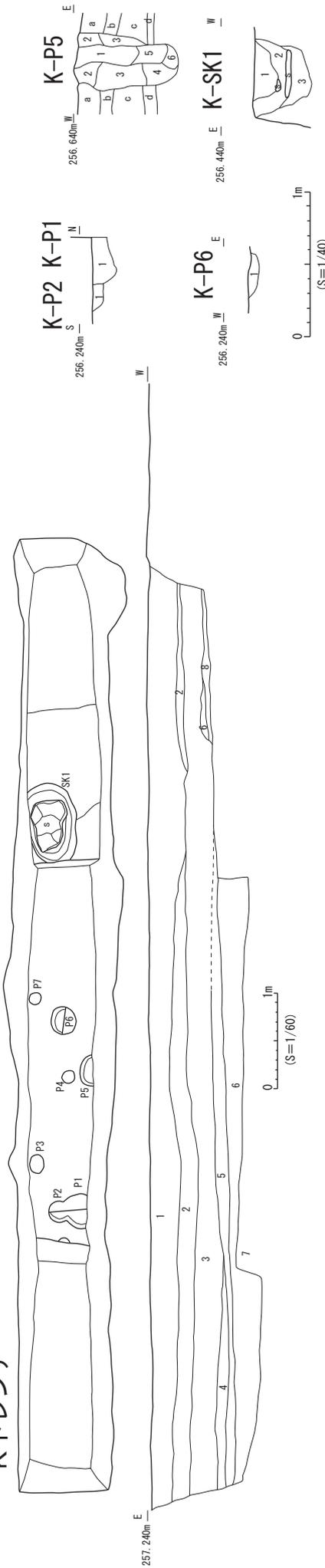


J-P2注記

- | | | |
|------------|----|----------------------------|
| 土色 | 土質 | しまり |
| 1. 10YR2/1 | 土 | 有 |
| | | 直径1cm大の礫を微量含む。 |
| | | 地山由来の10YR5/6シルトブロックを斑状に含む。 |

図3 Jトレンチ平・断面図

Kトレンチ



Kトレンチ注記

- | | | | |
|--------------|-----|------------------------------|-----------------------------------|
| 土色 | 土質 | しまり | |
| 1. 10YR4/6 | 有 | 山砂層。10YR5/6砂との混合層。グラウンドの整地層。 | |
| 2. 10YR4/2 | 砂 | 有 | グライ化した砂層。河砂。直径1cm大の礫を含む。閃緑岩、泥岩中心。 |
| 3. 10YR2/2 | 粘土 | 有 | 直径1~3cm大の礫を少量含む。炭化物を少量含む。 |
| 4. 10YR3/2 | 土 | 有 | 直径1~5cm大の礫と粗砂を少量含む。 |
| 5. 10YR4/3 | 粘土 | 有 | 焼土と炭化物を含む。直径1cm大の礫を少量含む。 |
| 6. 10YR1.7/1 | 粘土 | 有 | 砂粒を少量含む。 |
| 7. 10YR4/4 | シルト | 有 | 均質。地山。 |
| 8. 10YR1.7/1 | 粘土 | 有 | 直径1~8cm大の礫を多量含む。旧河川跡か。 |

K-SK1 注記

- | | | | |
|------------|----|-----|------------------|
| 土色 | 土質 | しまり | |
| 1. 10YR2/2 | 土 | 有 | 焼土含む。粗砂多量含む。 |
| 2. 10YR2/2 | 粘土 | 有 | 炭化物を含む。 |
| 3. 10YR2/1 | 粘土 | 有 | 炭化粒を微量含む。砂粒微量含む。 |

K-P1 注記

- | | | | |
|------------|----|-----|----------------------------|
| 土色 | 土質 | しまり | |
| 1. 10YR2/2 | 土 | 有 | 10YR3/2 土ブロックを含む。 |
| 2. 10YR3/2 | 土 | 有 | 焼土粒を含む。10YR2/2 土ブロックを少量含む。 |

K-P5 注記

- | | | | |
|------------|----|-----|--|
| 土色 | 土質 | しまり | |
| 1. 10YR2/2 | 土 | 有 | 焼土粒を含む。直径1~5cm大の礫を少量含む。 |
| 2. 10YR3/2 | 土 | 有 | 10YR2/1 土ブロックを微量含む。地山由来の 10YR4/4 砂ブロックを少量含む。 |
| 3. 10YR3/2 | 土 | 有 | 直径1~4cm大の礫を微量含む。焼土粒、炭化粒を含む。 |
| 4. 10YR4/3 | 土 | 有 | 10YR4/2 土ブロック、10YR2/2 土ブロックを少量含む。 |
| 5. 10YR3/2 | 粘土 | 有 | 直径1cm大の礫を微量含む。炭化粒を含む。10YR2/2 粘土ブロックを含む。 |
| 6. 10YR3/2 | 粘土 | 無 | 直径1cm大の礫を微量含む。10YR2/1 土ブロックを微量含む。 |

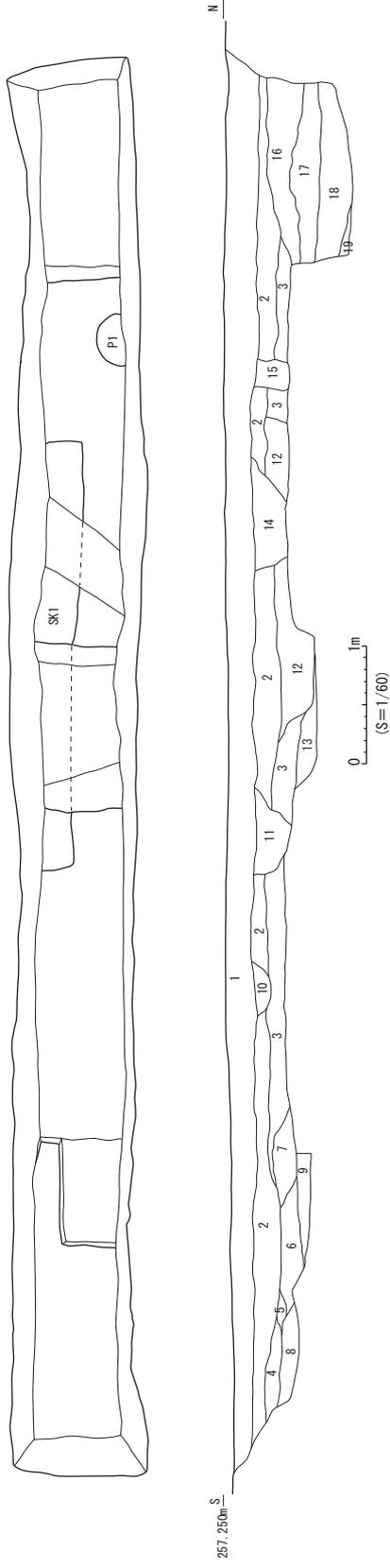
- | | | | |
|--------------|-----|---|------------------------------------|
| a. 10YR2/2 | 土 | 有 | 10YR2/1 土ブロックを少量含む。 |
| b. 10YR4/4 | シルト | 有 | 10YR2/1 土ブロックを微量含む。 |
| c. 10YR1.7/1 | シルト | 有 | 均質。 |
| d. 10YR2/1 | 粘土 | 有 | 均質。 |
| e. 10YR2/2 | 土 | 有 | 直径1cm大の礫を含む。直径1cm大の焼土塊、焼土粒、炭化粒を含む。 |
| | | | 10YR3/2 土ブロックを含む。 |

K-P6 注記

- | | | | |
|------------|----|-----|--------|
| 土色 | 土質 | しまり | |
| 1. 10YR2/2 | 土 | 有 | 焼土塊含む。 |
- 直径1~3cm大の地山由来の 10YR3/3 シルト、10YR1.7/1 土ブロック、10YR5/4 砂ブロックを少量含む。

図4 Kトレンチ平・断面図

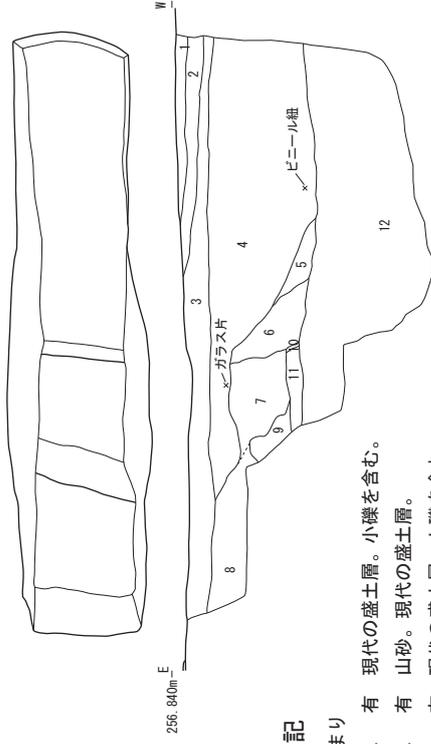
Lトレンチ



Lトレンチ注記

- | 土色 | 土質 | しまり |
|---------------|-----|-----|
| 1. 10YR5/6 | 砂 | 有 |
| 2. 10YR2/2 | 土 | 有 |
| 3. 10YR1.7/1 | 土 | 有 |
| 4. 10YR4/4 | 砂 | 有 |
| 5. 10YR2/2 | 粘土 | 有 |
| 6. 10YR4/4 | 砂 | 有 |
| 7. - | 礫 | 有 |
| 8. 10YR2/2 | 粘土 | 有 |
| 9. 10YR4/4 | 砂 | 有 |
| 10. 10YR3/2 | 粘土 | 有 |
| 11. 10YR3/2 | 粘土 | 有 |
| 12. 10YR3/2 | 土 | 有 |
| 13. 10YR6/6 | シルト | 有 |
| 14. 10YR2/2 | 土 | 有 |
| 15. 10YR3/2 | 粘土 | 有 |
| 16. 10YR1.7/1 | 土 | 有 |
| 17. 10YR3/4 | 砂 | 有 |
| 18. 10YR4/6 | 砂 | 有 |
| 19. 10YR5/4 | シルト | 有 |
1. 山砂。グラウンドの整地層。
 2. 焼土粒、炭化粒含む。直径1~3cm大の礫を少量含む。10YR1.7/1土ブロックを少量含む。
 3. 焼土塊、炭化物を含む。直径1~3cm大の礫を少量含む。10YR1.7/1土ブロックを少量含む。
 4. 直径1cm大の礫を多量含む。10YR2/2粘土ブロック少量含む。
 5. 直径1~5cm大の礫を少量含む。10YR4/4砂を少量含む。
 6. 直径1~3cm大の礫を多量含む。10YR2/2粘土ブロックを少量含む。
 7. 直径1~15cm大の礫層。泥岩中心。礫間に10YR2/2粘土を含む。
 8. 直径1~3cm大の礫を少量含む。炭化物少量含む。
 9. 均質。地山。
 10. 直径1cm大の礫を含む。焼土粒、炭化物少量含む。
 11. 直径1~5cm大の礫を含む。炭化物を少量含む。
 10YR1.7/1土ブロック、10YR2/2土ブロックを含む。
 12. 直径1~3cm大の礫を含む。炭化物を多量含む。焼土粒を少量含む。
 13. 均質。地山。
 14. 直径1~5cm大の礫を少量含む。炭化粒含む。10YR5/6砂ブロックを多量含む。
 15. 直径1cm大の礫を含む。焼土粒、炭化粒を含む。
 16. 直径1~20cm大の礫を多量含む。
 17. 直径1~3cm大の礫を少量含む。地山か。
 18. 均質。地山。
 19. 均質。地山。

Nトレンチ

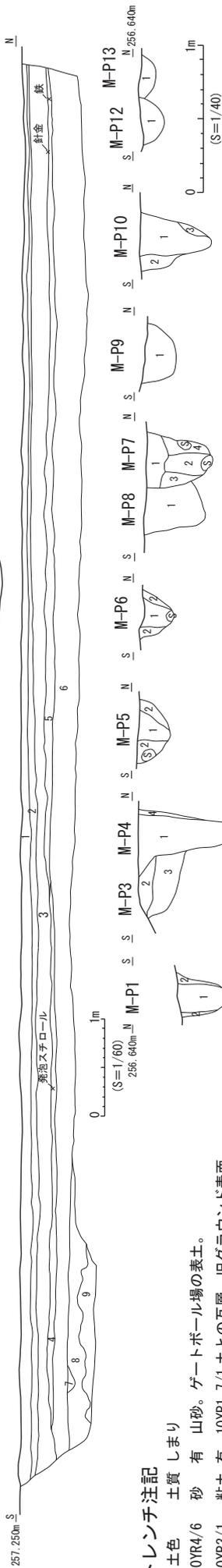


Nトレンチ注記

- | 土色 | 土質 | しまり |
|---------------|----|-----|
| 1. 10YR3/2 | 土 | 有 |
| 2. 10YR6/6 | 土 | 有 |
| 3. 2.5Y3/2 | 土 | 有 |
| 4. 10YR3/2 | 土 | 有 |
| 5. 10YR1.7/1 | 粘土 | 有 |
| 6. 10YR2/3 | 土 | 有 |
| 7. 10YR6/6 | 土 | 有 |
| 8. 10YR2/2 | 土 | 有 |
| 9. 10YR2/2 | 土 | 有 |
| 10. 2.5Y4/2 | 砂 | 有 |
| 11. 10YR1.7/1 | 粘土 | 有 |
| 12. - | 礫 | 有 |
1. 現代の盛土層。小礫を含む。
 2. 山砂。現代の盛土層。
 3. 2.5Y3/2 土。現代の盛土層。小礫を含む。
 4. 10YR3/2 土。直径1~20cm大の礫を含む。砂ブロックを含む。現代ゴミを含む。
 5. 10YR1.7/1 粘土。炭化粒を少量含む。直径1~3cm大の礫を少量含む。
 6. 10YR2/3 土。直径1~20cm大の礫と砂ブロックを少量含む。現代ゴミを含む。
 7. 10YR6/6 土。直径1~15cm大の礫を多量含む。10YR3/2土ブロックを含む。地山由来の層。焼土少量含む。
 8. 10YR2/2 土。直径1cm大の礫を少量含む。
 9. 10YR2/2 土。炭化粒少量含む。直径10YR2/1土ブロックを少量含む。
 10. 2.5Y4/2 砂。炭化物を少量含む。焼土粒を少量含む。直径1~3cm大の礫を少量含む。
 11. 10YR1.7/1 粘土。直径1~30cm大の礫層。全て円磨度が高く、河川内の礫だとみられる。
 12. - 礫

図5 L・Nトレンチ平・断面図

Mトレンチ



Mトレンチ注記

- 土色 土質 しまり
1. 10YR4/6 砂 有 山砂。ゲートボール場の表土。
 2. 10YR3/1 粘土 有 10YR1.7/1土との互層。旧グラウンド表面。
 3. 10YR5/6 砂 有 山砂。グラウンドの整地層。
 4. 10YR3/3 土 有 直径1～5cm大の礫を多量含む。発砲スチロール含む。
 5. 5Y3/2 砂 有 直径1～5cm大の礫を多量含む。針金を含む。
 6. 10YR2/2 土 有 焼土粒、炭化物を含む。直径1～3cm大の砂ブロックを少量含む。
 7. 10YR2/2 土 有 焼土粒を含む。
 8. 10YR1.7/1 土 有 焼土塊、炭化物を含む。直径1～5cm大の礫を少量含む。10YR4/6砂を少量含む。
 9. - 礫 無 直径3～30cm大の礫層。地山か。

M-P1注記

- 土色 土質 しまり
1. 10YR2/1 土 有 焼土塊、炭化物を少量含む。直径1～3cm大の礫を少量含む。
 2. 10YR2/1 土 有 炭化物を含む。地山由来の10YR4/4土を少量含む。

M-P3・4注記

- 土色 土質 しまり
1. 10YR2/2 土 有 焼土粒を少量含む。砂粒を少量含む。10YR1.7/1土ブロックを少量含む。
 2. 10YR2/2 土 有 焼土粒、炭化物を少量含む。砂粒を少量含む。
 3. 10YR2/2 粘土 有 焼土粒を微量含む。地山由来土を少量含む。
 4. 10YR1.7/1 土 有 周辺地盤か。

M-P5注記

- 土色 土質 しまり
1. 10YR1.7/1 土 有 直径1cm大の礫を少量含む。10YR2/2土を少量含む。地山由来土を少量含む。
 2. 10YR2/2 土 有 焼土粒、炭化物を含む。10YR1.7/1土を少量含む。

M-P6注記

- 土色 土質 しまり
1. 10YR1.7/1 土 有 焼土粒、炭化物を少量含む。
 2. 10YR2/2 土 有 10YR1.7/1土を含む。地山由来土粒少量含む。

M-P7注記

- 土色 土質 しまり
1. 10YR2/2 土 有 炭化粒を少量含む。地山由来土を少量含む。
 2. 10YR1.7/1 粘土 有 焼土粒、炭化物を少量含む。
 3. 10YR2/1 土 有 焼土粒、炭化物を含む。地山由来土を少量含む。
 4. 10YR2/1 土 有 直径1～5cm大の礫を少量含む。焼土粒、炭化物を少量含む。地山由来土を少量含む。

M-P8注記

- 土色 土質 しまり
1. 10YR2/2 土 有 直径1～10cm大の礫を少量含む。焼土、炭化物多量含む。地山由来の10YR5/6土を含む。角釘が出土。

M-P9注記

- 土色 土質 しまり
1. 10YR1.7/1 粘土 有 直径1～3cm大の礫を少量含む。焼土、炭化物少量含む。地山由来の10YR5/6シルトブロックを少量含む。

M-P10注記

- 土色 土質 しまり
1. 10YR2/2 土 有 焼土粒、炭化粒を含む。10YR1.7/1土ブロック少量含む。
 2. 10YR1.7/1 土 有 地山由来の10YR5/6ブロックを含む。
 3. 10YR4/6 シルト 有 地山。

M-P12注記

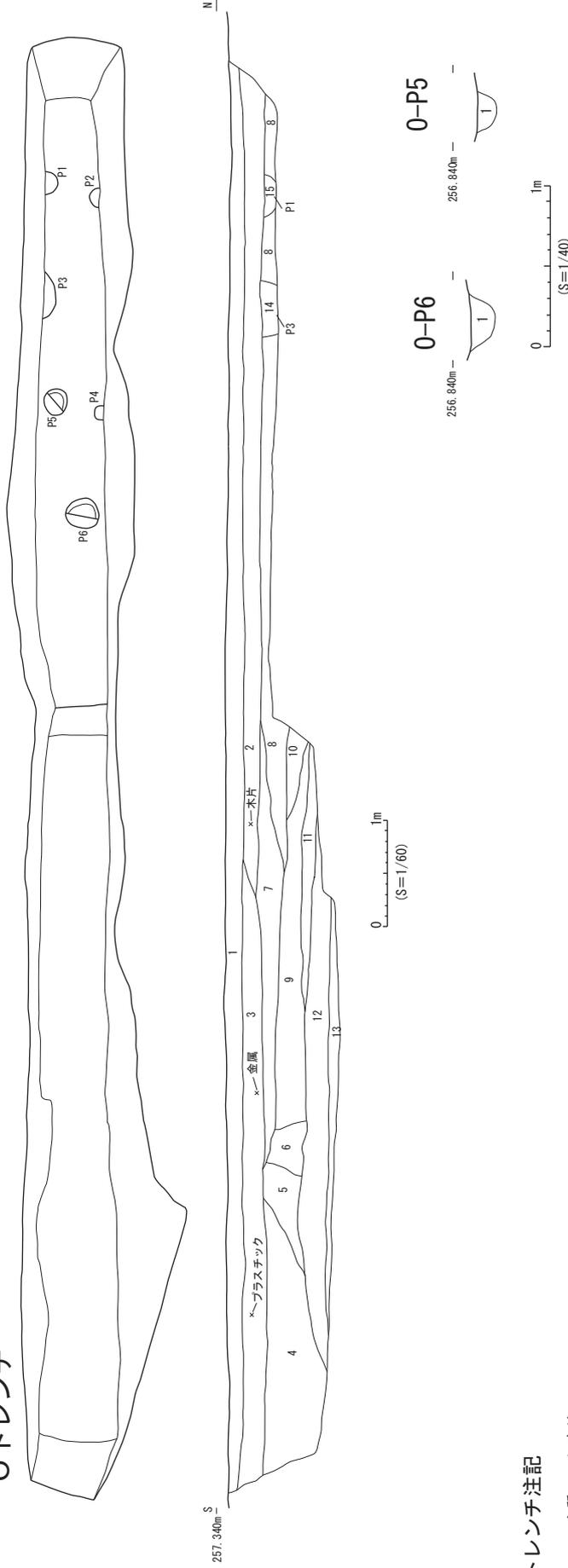
- 土色 土質 しまり
1. 10YR3/3 土 有 10YR1.7/1土を多量含む。

M-P13注記

- 土色 土質 しまり
1. 10YR3/3 土 有 10YR1.7/1土を多量含む。

図6 Mトレンチ平・断面図

オトレンチ



オトレンチ注記

- | | | |
|----------------|-----|---|
| 土色 | 土質 | しまり |
| 1. 10YR6/4 | 砂 | 有 山砂。ゲートボール場の盛土。 |
| 2. - | 礫 | 有 直径 1～30cm 大の礫層。礫間に 10YR3/3 を含む。円磨度の高い礫。円磨度の高い礫。円磨度の高い礫。円磨度の高い礫。 |
| 3. 10YR2/2 | 土 | 有 直径 1～3cm 大の礫を少量含む。砂粒を含む。プラスチックや針金などの現代ゴミを含む。 |
| 4. 10YR2/2 | 土 | 有 直径 1～40cm 大の礫を多量含む。 |
| 5. 10YR2/2 | 土 | 有 直径 1～40cm 大の礫を少量含む。 |
| 6. - | 礫 | 有 直径 1～30cm 大の礫層。礫間に 10YR2/2 土を含む。 |
| 7. 10YR2/1 | 土 | 有 直径 1～5cm 大の礫を少量含む。砂粒を少量含む。焼土粒、炭化粒を微量含む。 |
| 8. 10YR1. 7/1 | 土 | 有 焼土粒、炭化粒を少量含む。遺構の掘り込みが見られる。 |
| 9. 10YR2/2 | 土 | 有 直径 1～15cm 大の礫を含む。 |
| 10. 10YR4/3 | 土 | 有 直径 1cm 大の 10YR2/2 土ブロックを微量含む。基本的に均質、地山カ。 |
| 11. 10YR4/3 | 砂 | 無 水性堆積とみられる砂層。均質。 |
| 12. 10YR1. 7/1 | 粘土 | 有 均質。 |
| 13. 10YR4/3 | シルト | 無 均質。地山。 |
| 14. 10YR2/2 | 土 | 有 炭化物少量含む。砂粒少量含む。遺構。 |
| 15. 10YR2/2 | 土 | 有 焼土塊少量含む。砂粒少量含む。遺構。 |

0-P6 注記

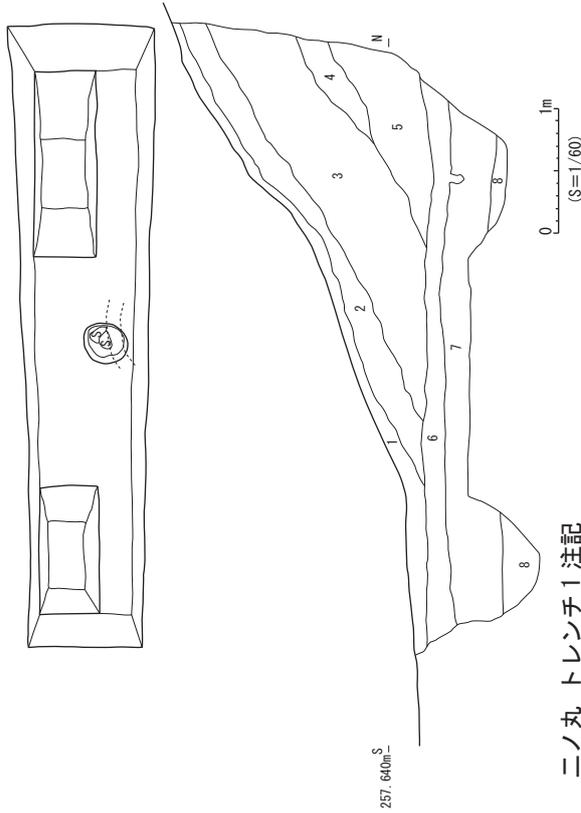
- 土色 土質 しまり
 1. 10YR2/2 土 有 焼土粒少量含む。直径 1～2cm 大の礫を少量含む。
 地山由来の 10YR3/3 シルト粒を少量含む。

0-P5 注記

- 土色 土質 しまり
 1. 10YR2/1 土 有 焼土粒少量含む。
 直径 1cm 大の地山由来の 10YR3/4 シルトブロックを少量含む。

図 7 オトレンチ平・断面図

二ノ丸 トレンチ1



二ノ丸 トレンチ1 注記

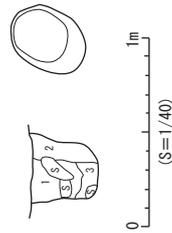
- | | | | |
|--------------|----|-----|--|
| 土色 | 土質 | しまり | |
| 1. 10YR1.7/1 | 土 | 無 | 落ち葉などの腐食土。 |
| 2. 10YR2/2 | 土 | 有 | 直径1cm大の礫を多量含む。 |
| 3. - | 礫 | 無 | 直径1～30cm大の礫層。20～30cm大が中心。礫間に10YR4/3土を含む。 |
| 4. 10YR3/3 | 土 | 有 | 直径1～10cm大の礫を含む。 |
| 5. 10YR4/3 | 土 | 有 | 直径1～15cm大の礫を含む。 |
| 6. 10YR2/2 | 土 | 有 | 直径1～10cm大の礫を含む。 |
| 7. 10YR1.7/1 | 土 | 有 | 炭化物を少量含む。旧地表面。 |
| 8. 10YR4/3 | 土 | 有 | 地山。 |

二ノ丸 P1

257.640m S N

二ノ丸 P1 注記

- | | | | | |
|----|---------|----|-----|--|
| A | 土色 | 土質 | しまり | |
| 1. | 10YR2/1 | 土 | 無 | 炭化物を含む。焼土塊を含む。 |
| 2. | 10YR2/1 | 土 | 無 | クルミ片、ビニール紐を含む。遺構の壁に横穴がある。モグラやハタネズミが入り込み、巣穴にしていたと考える。 |
| 3. | 10YR2/1 | 土 | 有 | 炭化物を少量含む。10YR2/2土ブロックを少量含む。 |



二ノ丸 トレンチ2



二ノ丸 トレンチ2 注記

- | | | | |
|--------------|----|-----|--|
| 土色 | 土質 | しまり | |
| 1. 10YR1.7/1 | 土 | 無 | 腐食土層。 |
| 2. 10YR4/4 | 土 | 有 | 直径1～10cm大の礫を少量含む。 |
| 3. - | 礫 | 無 | 直径3～20cm大の礫層。10～15cm大の礫が中心。礫間に土の入り込みがない。礫は一部黒色化している。 |
| 4. - | 礫 | 有 | 礫間に10YR4/4土を含む。 |
| 5. - | 礫 | 有 | 直径3～20cm大の礫層。礫間に10YR4/4土を含む。 |
| 6. 10YR3/1 | 土 | 有 | 直径1～5cm大の礫を少量含む。砂粒を少量含む。炭化物を少量含む。 |
| 7. 10YR2/1 | 土 | 有 | 旧地表。炭化物を少量含む。砂粒を少量含む。 |

図8 二ノ丸周辺トレンチ平・断面図

測定番号	測定試料名	試料情報	試料状態	処 理
YU-5098	HGJ-1	炭化物 萩生城 二の丸土塁下	2.293mg 使用	AAA処理 1M HCl 80度 1時間 0.1M NaOH 80度 1時間 (10回) 1M HCl 80度 1時間
YU-5099	HGJ-2	炭化物 萩生城 Mトレンチ P 1	2.274mg 使用	AAA処理 1M HCl 80度 1時間 0.1M NaOH 80度 1時間 (5回) 1M HCl 80度 1時間
YU-5100	HGJ-3	炭化物 萩生城 Mトレンチ P 7	2.244mg 使用	AAA処理 1M HCl 80度 1時間 0.1M NaOH 80度 1時間 (2回) 1M HCl 80度 1時間
YU-5101	HGJ-4	炭化物 萩生城 Lトレンチ SK-1	2.270mg 使用	AAA処理 1M HCl 80度 1時間 0.1M NaOH 80度 1時間 (5回) 1M HCl 80度 1時間

表2 炭素年代測定資料の一覧

測定番号	試料名	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
					1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
YU-5098	HGJ-1	-25.26 \pm 0.23	849 \pm 20	850 \pm 20	1170AD (8.0%) 1175AC 1182AD (60.2%) 1217AD	1158AD (95.4%) 1247AD
YU-5099	HGJ-2	-25.29 \pm 0.23	329 \pm 20	330 \pm 20	1513AD (11.2%) 1529AD 1544AD (43.5%) 1601AD 1617AD (13.5%) 1634AD	1489AD (76.2%) 1604AD 1610AD (19.2%) 1640AD
YU-5100	HGJ-3	-25.70 \pm 0.23	353 \pm 20	355 \pm 20	1477AD (35.2%) 1522AD 1575AD (6.0%) 1585AD 1590AD (26.9%) 1625AD	1461AD (45.3%) 1527AD 1554AD (50.1%) 1634AD
YU-5101	HGJ-4	-27.15 \pm 0.23	376 \pm 20	375 \pm 20	1455AD (51.1%) 1495AD 1602AD (17.1%) 1616AD	1448AD (68.3%) 1522AD 1575AD (27.1%) 1624AD

表3 炭素年代測定の結果

3. 手ノ子地区 宇津峠周辺の分布調査

3-1. 調査の経緯

平成15（2003）年、手ノ子地区協議会に宇津峠部会が発足した。これは当地に残る宇津峠旧道とその周辺にある文化財を活かし、地域社会の振興活動を目的とした会で、宇津峠旧道を継続的に維持・管理することで旧道を遊歩道として整備し、春と秋に「宇津峠歩こう会」という散策イベントを開催してきた。また旧道沿いの文化財の発見・整備を進め、散策活動を発展させてきた。宇津峠と当地の文化財に関しては、地元の郷土史家である井上俊雄氏が古地図や史料から歴史的研究

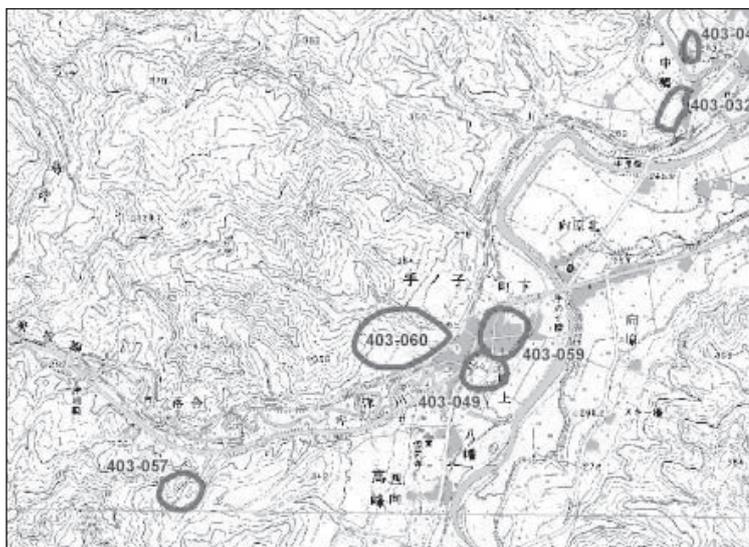


図9 飯豊町西部遺跡地図

を行っており、十分な成果があったことから活動は有効に進んだ。この宇津峠部会の活動によって、宇津峠は飯豊町における重要な文化エリアの一つとして成長しており、このエリアの文化財の保護・保存は当町の文化財における課題になっていた。特に埋蔵文化財については旧街道が昭和42年に廃道となったことから調査は全く実施されてこなかったため、その実情が明らかになっていなかった。このような状況に対して、宇津峠部会の活動が展開している旧道周辺において踏査・試掘による埋蔵文化財の分布調査を実施し、当地の埋蔵文化財の実情の把握を目指した。

遺跡番号	遺跡名	年代
403-032	長者原遺跡	縄文時代
403-041	才先林遺跡	縄文前期
403-049	手ノ子南館	
403-057	館ノ越	
403-059	町屋敷	
403-060	手ノ子西館	

表4 飯豊町西部遺跡一覧

3-2. 歴史的環境・地理的環境

調査地とした宇津峠は飯豊町の西部に所在する。越後－米沢街道の一区間を占める峠である。越後－米沢街道は十三の峠があることから通称十三峠街道と呼ばれており、大永元年（1521）年、伊達植宗によって大里峠が開削されたことに始まるといわれる。宇津峠区間は上杉氏が入部した後、慶長期に開削された近世のルートだと考えられているが、宇津峠の頂上付近にある宇津明神跡地は山形県の中世城館遺跡報告書などで砦跡だとみなされており、中世からの交通も想定される区間である。

宇津峠は、十三峠中最も峻険で通行が難しい区間として知られているが、米沢藩にとって重要な物資輸送のルートであった。このルートを使用して越後から置賜へ古手・繰綿・茶・小間物・いさば・鉄・塩が移入され、置賜から越後へは青苧・漆蠟が移出された。先行研究によれば、近世後期には全国的な市場を確保していた越後の小千谷地方の縮織の生産に青苧を供給する重要なルートになっていたという。十三峠街道はこのような重要な道でありながら、雨の時期には泥道となり、青苧の輸送に支障をきたした。この対策として天保6（1835）年～弘化2（1845）年を前期、嘉永6（1853）年～慶応3（1867）年を後期として、敷石と拡幅による道普請が行われた。小国の黒澤峠に見られる石畳はこの普請によるもので、人馬の物資輸送を支える簡易舗装として敷かれている。宇津明神跡地にはこの工事

を記念した道普請供養塔が今も残っている。石畳は宇津峠にも敷かれていたが、明治期に地盤を荒らす原因として撤去されたという。明治5（1872）年に『東北紀行』を記したパリ外国宣教会所属の神父J・M・マランと明治11（1878）年に『日本奥地紀行』を記したイギリス出身の女性旅行家のイザベラ・ルーシー・バードの著書には石畳がある宇津峠の様子が記されており、そこから当時の宇津峠の姿を知ることができる。

近世段階の交通を支えるため、米沢藩は峠の頂上付近に介（たすけ）茶屋を設置した。街道を通る旅人が病気・事故に見舞われた場合、救護・看病する施設である。地元に残る絵図にはこの介茶屋の姿が描かれているし、秋田佐竹藩に残る「米沢見分録」には宇津峠の介茶屋の様子が「行間十一間、梁間四間半のカヤ葺き、のし立造の建物があり、今小与治というものが、二人扶持・苗字帯刀御免で小屋守を勤めていた」と記されている。最後に当地にいたのは永井家であったが、昭和8（1933）年に麓に移住したため今は更地になっている。

近代の十三峠街道は、蒸気船の使用によって太平洋海運が盛んになるまで重要な物流ルートだった。明治9（1876）年に初代山形県令となった三島通庸が、日本海から太平洋までのルートを重要視し小国新道と万世大路の整備を計画したことからも当街道の重要性が理解できる。小国新道は、三島が福島に去った明治17（1884）年に完成したが、三島が計画したルートは地滑りや雪崩で長続きせず、明治27（1894）年に新車道に付け替えが行われた。明治24（1891）年には宇津峠に囚人派遣所を設置し、冬に雪踏みによる道付けを行っていることから、このルートが重視されていたとみられる。近代道には、当時の土木技術が理解できる遺構が今も残っている。明治27（1894）年に竣工した急斜面を強引に削って標高を稼ぐ九十九折の道には、その山側の壁を補強する谷積工法の石積が築かれている。また谷側についても谷積み工法で石積みを築き、壁面を補強している場所がみられる。

やがて青芋輸送の減少、太平洋海運の発展を経て、鉄道輸送が確立する。昭和11（1936）年に米坂線が開通すると宇津峠の役割は半減し、冬期には通行不能道になった。戦後、今度は自動車の普及が進むと国道113号線に指定される。この道は昭和42（1967）年に宇津トンネルが開通するまで使用されており、東京オリンピックの聖火もこの道を通っている。この道は廃道になるまで玉砂利敷きの状態で使用されていた。

3-3. 調査の経過

- 2016年4月10日 旧道確認の現地踏査
- 2016年4月27日 試掘調査（近世道）
- 2016年5月10日 試掘調査（近代道）
- 2016年5月14日 試掘調査（近代道、石積）
- 2016年5月20日 試掘調査（近代道、石積）
- 2016年5月22日 古道散策イベント（宇津峠歩こう会）にて調査説明
- 2016年10月7日 試掘調査（介茶屋跡、宇津明神跡地）
- 2016年10月9日 試掘調査（介茶屋跡、宇津明神跡地）
- 2016年10月11日 試掘調査（介茶屋跡、宇津明神跡地）
- 2016年10月30日 古道散策イベント（宇津峠歩こう会）にて調査説明
- 2016年11月5日 古道散策イベント（東北街道会議）にて調査説明
- 2016年11月16日～17日 全地区埋戻し、安全確保作業
- 2017年2月～2017年3月 報告書作成

3-4. 手ノ子地区におけるトレンチ調査の結果 (図10)

3-4-1. 宇津明神跡周辺の調査 (図11)

当地は近世に宇津明神が祀られており、中世には砦跡であったと考えられている地点である。中世の砦の痕跡を確認するため、跡地の中央から十字に4本のトレンチを設定し調査を実施した。

・ Aトレンチ (図12)

宇津明神跡地の中央部から南向きのトレンチをAトレンチとした。1～2層に腐食土が堆積し、直下に地山が確認できる。P7～9の小ピットを検出した。P9からはビニールが出土した。また1層から鉄製のワイヤーが出土した。宇津明神は昭和37年8月27日に当地から遷座し落合神社に合祀している。これらの現代ゴミはこの遷座作業に伴うものだと推定する。ちなみにBトレンチの西側の石碑群は、遷座時に周囲の石碑を集めたものである。

・ Bトレンチ (図12)

西向きのトレンチをBトレンチとした。1～2層に腐食土が堆積し、直下に地山が確認できる。トレンチの西半に貯蔵穴とみられる深い土壌(SK-1)を検出したが遺構の全形を確認することはできなかった。可能な範囲で掘削した結果、遺構の深さは表土から150cm以上あることが確認された。また3層から頁岩の剥片が出土した。

・ Cトレンチ (図12)

北向きのトレンチをCトレンチとした。1～2層に腐食土が堆積し、直下に地山が確認できる。P10・P11の遺構を検出した。形状は柱穴に似ているが、土層断面に明確な柱痕は確認できない。P10とP11は形状、覆土の類似性、配置から相互に関連する遺構だと考えられる。両遺構の中心間の距離は180～200cm、約1間である。仮に建物の柱跡だとするならば、1間ごとに格子状に柱を立てる総柱建物の痕跡とみることもできる。遺構の直径が80cmと比較的大きく、当地が神社跡地であることを考えれば、古い神社の社跡の可能性を提示することができる。P10から頁岩の剥片が出土した。

・ Dトレンチ (図12)

東向きのトレンチをDトレンチとした。1～2層に腐食土が堆積し、直下に地山が確認できる。ピットを検出した。P6はCトレンチのP10とP11と同質の遺構である可能性が高い。

・ Eトレンチ (図12)

宇津明神跡地の周辺の土塁跡だと理解されている地点にEトレンチを設定した。1～2層に腐食土が堆積し、直下に地山が確認できる。土層からは人為的な盛土の痕跡を確認できなかった。

・ 宇津明神跡周辺の調査結果

宇津明神跡地は中世に砦として、近世には神社として使用されたと推測されている。今回の調査によって総柱建物跡の可能性のある遺構と貯蔵穴とみられる深い土壌を検出した。貯蔵穴は位置的に昭和37年まで当地にあった宇津明神の社の下に所在する遺構である。近世の社のプランが現代まで引き継がれていたとすれば、この遺構は近世以前の遺構となる可能性があるかもしれない。しかし土塁とみなされていた地点では人為的な盛土の痕跡を確認することはできなかった。また中世～近世の遺物は出土しなかった。このような結果からは明確な中世の痕跡は確認できなかったといえる。また各遺構から、人為的に割られた可能性が高い頁岩の剥片が出土した。この頁岩は当地に縄文の遺跡

が存在していることを示唆するが、検出した遺構は土の締りやプランの特徴から縄文時代の遺構である可能性は低く、仮に当地に縄文の遺跡があったとしても、その遺構はすでに破壊されている可能性が高いことが認識できた。

3-4-2. 介茶屋跡周辺の調査 (図13)

当地は近世に介茶屋という藩の施設が所在したと考えられている地点である。近世の建物・生活の痕跡を確認するために9本のトレンチを設定し、調査を実施した。

・トレンチ1 (図14)

1層は腐食土である。2層は近世から近代の遺物を含む覆土である。3層は地山とみられる層で凝灰岩片と凝灰岩を由来とするシルトが混在する層である。当地の西側には崖があり、トレンチ9で凝灰岩の岩盤が確認できた。3層はこの岩盤から崩れ落ちた凝灰岩が堆積した層だと判断する。4層は遺構だとみられるが不整形で明確ではない。

・トレンチ2 (図14)

トレンチ1と同じ土層である。

・トレンチ3 (図14)

1～2層はトレンチ1と同様である。5層はトレンチ4の5～6層、トレンチ7の5～7層と同質の層である。当トレンチの地山の検出深度が深く、当地点には東西方向の落ち込みがあることが認識できる。5層はその覆土である。また当トレンチでは2層に掘り込まれるピットが検出された。ピットからは近現代の陶磁器が出土した。

・トレンチ4 (図14)

1～2層はトレンチ1と同様である。2層から磁器片が出土した。5～6層から頁岩の剥片と胎土が粗く断面が黒色化している低下度焼成の土器片が出土した。8層を地山だと判断する。

・トレンチ5 (図14)

トレンチ1と同じ土層である。3層を地山だと判断する。地山に大きな凝灰岩が含まれる。

・トレンチ6 (図14)

旧越後街道の端部から介茶屋跡にかけて設けたトレンチである。1層は腐食土、2層・10層は近世から近代の覆土だと判断する。11層はクロボク土で頁岩の剥片が出土した。3層は地山である。街道の端部に人為的に並べたとみられる石列が確認できた。

・トレンチ7 (図14)

1～2層はトレンチ1と同様である。5～6層から頁岩の剥片が出土する。8層を地山だと判断する。

・トレンチ8 (図14)

1～2層はトレンチ1と同様である。2層から磁器片が出土する。9層から頁岩の剥片が出土する。3層を地山だと判断する。

・トレンチ9 (図14)

調査地の西側に広がる崖の裾に設けたトレンチである。1～2層はトレンチ1と同様である。直下に凝灰岩の岩盤が確認できる。

・介茶屋跡周辺の調査結果

何点かのピットを検出することができたが、近世の建物跡を構成する明確な遺構ではなかった。介茶屋の跡地は別の場所であるのか、もしくは当地点が跡地ではあるが、介茶屋の建物が柱跡を残すような掘立柱建物ではなく礎石建物であった可能性も考える必要がある。2層から近世～近代期の陶磁器片が出土したことから、少なくとも近世段階の生活の痕跡が確認できた。ただし全て小破片で、器形が分かるものはない。反面、頁岩の剥片が多数出土した。周辺の地質の状況から自然堆積物として頁岩の破片が当地点に入り込むとは考えにくい。また磨滅が激しいために時期は不明であるが胎土が粗い土器片が出土したことから、当地に縄文時代の遺跡があることが推測できた。

3-4-3. 近世・近代道のトレンチ調査 (図15・16)

踏査によって確認した近世末期に使用されていたと想定される近世道の跡と、明治27(1894)年に竣工し昭和42(1967)年まで使用されていた近代道の跡に計5本のトレンチを設定して、各時期の道の施工技術の調査を実施した。また近代道については、道の側部の補強のために設置されている石積の調査も行う目的で、石積みがある地点を選択して調査を実施した。

・トレンチ1 (図17)

近代道を横切るように設定した東西方向のトレンチである。1層は腐食土の堆積である。2層は玉砂利を主体とする旧路面を形成したとみられる層である。路面の舗装を目的とした層だと理解する。3層は約40cm幅の礫層である。当地点ではトレンチの南側の傾斜に石積が積まれており、3層の礫は石積の裏面に設けられた裏込だと考えられる。これは石積の裏面に入り込んだ雨水を排水すると共に、石積を背面から支え、地震などの際にクッションの役割を果たす層だと考えられる。4～9層は道の基盤となる層であるが、これらはすべて山側(北側)から谷側(南側)に傾斜する層である。これらの層にはブロック状の土が混在していることから、自然堆積ではなく人為的に動かされた盛土の可能性が高いと考えられる。13層は地山で石積に向かって傾斜している。北側の地形を観察すると沢があり、入り組んだ地形になっている。当地点はかつて沢で凹んでいる地点であったと推定できることから、そこに土を運び、埋め立てて平場を設け、道路を敷設した場所だと考えられる。

・トレンチ2 (図17)

石積の前面に設定したトレンチである。地表には約320cmの石積が露呈していたが、さらに約240cm分の石積が埋没していることがわかった。もともと約560cmの高さの石積だったといえる。また石積は下3段分が、目地が通る「布積」で、4段目からは交互に斜めに積み上げる「谷積(落とし積み)」の工法で積まれていた。布積みは谷積に対して安定することがわかっており、布積部分が根石の役割を果たしていると考えられる。谷積はより小さい石材で広い面積を積み上げることが可能な積み方であり、上部にはこの方法が採用されたとみられる。トレンチの西面土層の観察から、旧地表に120cmほど掘り込みを行い、根石を設置した後、埋め戻して固定したことが理解できる。また17層付近より森永乳業の牛乳瓶の破片が出土している。描かれるエンゼルマークは昭和8～26年まで使用されたものであるため、ここから谷積部分の石積を埋め立てた土は昭和期に盛られたものだと判断できる。おそらく自動車の交通が盛んになる状況に対して、補強としたのではないだろうか。また石積の石材の間には石灰かセメントが塗りこめられている。これは石積を補強したものだと考えられる。石灰・セメントの所々に穴が空けられており、これは裏込めを通して流れ出

る水を廃水する目的の穴だと想定する。

・トレンチ3 (図18)

トレンチ1と同じく近代道を横切るように設定した東西方向のトレンチである。1層は腐食土層である。2～3層は旧路面を形成した層だと判断する。4層は約40cm幅の裏込層。5～9層は道の基盤層で山側から埋め立てた土層である。トレンチ1と同様の土層である。

・トレンチ4 (図18)

近世末期まで使われた旧越後街道だと推定される地点である。道を横切るようにトレンチを設定した。1層は腐食土層である。2～4層は砂と粘土・シルトが互層に堆積する層である。堆積状況から道に流れ込む水によって運ばれた水性堆積層だと判断する。8層を地山だと判断する。

・トレンチ5 (図18)

道の端部を確認するためにトレンチ4から離れた地点に設けたトレンチである。7層が地山である。1～6層は腐食土層と地山に似た崩落土が交互に堆積する。道の設置施工時の路面は7層の上面だったと考える。

・近世・近代道のトレンチ調査結果

近世道と近代道で明確に施工の違いが理解できた。近世道は表土と地山を削ることで設けた平らな面をそのまま路面としている。排水溝などはなく、次第に周辺から流れ込んできた粘土とシルトが路面を覆っていく状況が理解できる。またルートは、おうとつが少ない地形を選び、短い距離で山中の最短のルートを峠の頂上へ目指して登っている。その分、小刻みなカーブが多くなり、また傾斜は急激となる。近世的な交通手段である牛馬や人間の歩行移動では走破が可能な道である。

近代道は路面に玉砂利を敷いている。ルートを俯瞰すると山の斜面を削りとり、九十九折に敷設されている。このような施工によって、所々で急激なカーブを設けることになるが、基本的には直線によって構成されるルートとなり傾斜は緩やかなものとなる。近世同様に排水溝はないが、山の斜面を削ることから、水は所々で自然と谷側に排水されることになる。また道の側面を補強している石積の調査によって、石積の裏面に裏込め層が確認された。このような工法の採用からは排水を意識していることがわかる。また石積を設け、沢を埋め立てたような大工事を行ってまでも、可能な限り直線を設け、傾斜が緩い道を敷設しようとする志向がみてとれる。このような志向の発生については、それまで歩行を基本としていた近世的な交通手段が、明治期に入り荷車や人力車など、車輪を利用した交通手段に変化していったことが理由として考えることができる。

参考文献

- 岡田武松 校訂『北越雪譜』（岩波書店、1936年1月）
- 長野亘「高橋由一と山形懸」（『羽陽文化』第十五号、1952年7月）
- 柳原吉次「古松軒著「東遊雑記」の抄録（上）」（『羽陽文化』第十九号、1953年7月）
- イザベラ・バード著 高梨健吉訳『日本奥地紀行 東洋文庫240』（平凡社、1973年10月）
- 川西町史編さん委員会「11交通路の変遷」『川西町史 上巻』（川西町、1979年11月）
- 井上俊雄「幕末期米沢藩の道路改良—十三峠の敷石道に関連して—」（『山形県地域紙研究』7、1982年3月）
- 長井市史編纂委員会「第三章第四節 青苧と漆（蠟）の生産」『長井市史 第二巻』（長井市、1982年11月）
- 長井市史編纂委員会「第三章第二節 伊達植宗の交通施策の拡大」『長井市史 第一巻』（長井市、1984年6月）
- 山形県「第五章第五節 領内交通の整備」『山形県史 第二巻』（山形県、1985年3月）

飯豊町史編纂委員会「第5章第7節 交通・輸送の発達」『飯豊町史・上』（飯豊町、1986年3月）
 山形県「第六章第六節 羽州街道と脇街道」『山形県史 第三巻』（山形県、1987年3月）
 飯豊町教育委員会「宇津峠」『飯豊町の歴史散歩』（飯豊町教育委員会、1988年3月）
 遠藤利兵衛「十三峠に行く」（『いいで史話』第18号、1990年3月）
 遠藤利兵衛「十三峠に行く―萱野峠・大里峠―」（『いいで史話』第20号、1992年3月）
 樋口忠一「雪除派遣囚飯監と冬の道」（『いいで史話』第20号、1992年3月）
 米沢市史編さん委員会「第三章第四節 近世後期の交通と旅」『米沢市史第三巻 近世編2』（米沢市、1993年3月）
 小国町誌編集委員会『小国の交通』（小国町、1996年3月）
 渡部眞治『蘇る敷石道～越後街道黒澤峠の変遷を辿る～』（黒澤峠敷石道保存会、1998年）
 井上俊雄「「越後道」を開いた伊達氏」『置賜の歴史』（郷土出版社、2001年7月）
 竹田市太郎「山脈を横断する「絹の道」 西山新道の開削」『置賜の歴史』（郷土出版社、2001年7月）
 宮本常一『イザベラ・バードの『日本奥地紀行』を読む』（平凡社、2002年12月）
 塩野芳太郎『ふるさと双書第一集 宇津峠と「手ノ子」の宿』（飯豊町手ノ子地区協議会、2004年3月）
 山形文化フォーラム実行委員会『バードの足跡 置賜の人々と日々の暮らし』（山形文化フォーラム第一回資料、2004年5月）
 井上俊雄『新史料ノート① 山形県飯豊町手ノ子・今家所蔵文書』（飯豊町教育委員会、2004年8月）
 井上俊雄「宇津峠の今昔」（『懐風』31号、2006年4月）
 峯村昭一「越後街道（米沢街道）の峠と宿場」（『飯豊史話』35号、2007年3月）
 高橋運作「宇津峠と「手ノ子」の宿場」（『飯豊史話』36号、2008年3月）
 イザベラ・バード著 時岡敬子訳『イザベラ・バードの日本奥地紀行 上』（講談社、2008年4月）
 イザベラ・バード著 時岡敬子訳『イザベラ・バードの日本奥地紀行 下』（講談社、2008年6月）
 安部俊治「戦国期伊達領長井（置賜郡）と越後への通路と手ノ子館について」（『歴史と考古』第六号、2008年6月）
 峯村昭一「峠の道」（『飯豊史話』37号、2009年3月）
 大場喜代司「村上藩と米沢地方」（『歴史と考古』第七号、2010年6月）
 金山等「イザベラ・バードの『日本奥地紀行』を読む」（『歴史と考古』第十号2010年6月）
 高井耕次「飯豊町を通行した人々Ⅰ」（『いいで史話』第39号、2011年3月）
 渋谷光夫『イザベラ・バードの山形路 「アルカディア街道」散策のススメ』（無明舎出版、2011年7月）
 高橋純『ガイドブック史跡編』（宇津峠部会、2011年8月）
 イザベラ・バード著 金坂清則訳『完訳日本奥地紀行2 東洋文庫823』（平凡社、2012年7月）
 高橋純『宇津峠歩こう会 第九回 宇津峠の樹花』（宇津峠部会、2012年11月）
 高橋純『宇津峠歩こう会 第十回 宇津峠の草花』（宇津峠部会、2013年）
 高橋純「アルカディア・風景の心」（『いいで史話』第41号、2013年3月）
 イザベラ・バード著 金坂清則訳『新訳日本奥地紀行 東洋文庫840』（平凡社、2013年10月）
 赤坂憲雄『イザベラ・バードの東北紀行〔会津・置賜篇〕『日本奥地紀行』を歩く』（平凡社、2014年5月）
 高橋純「バードがぞっとしたものとは」（『いいで史話』第44号、2016年3月）

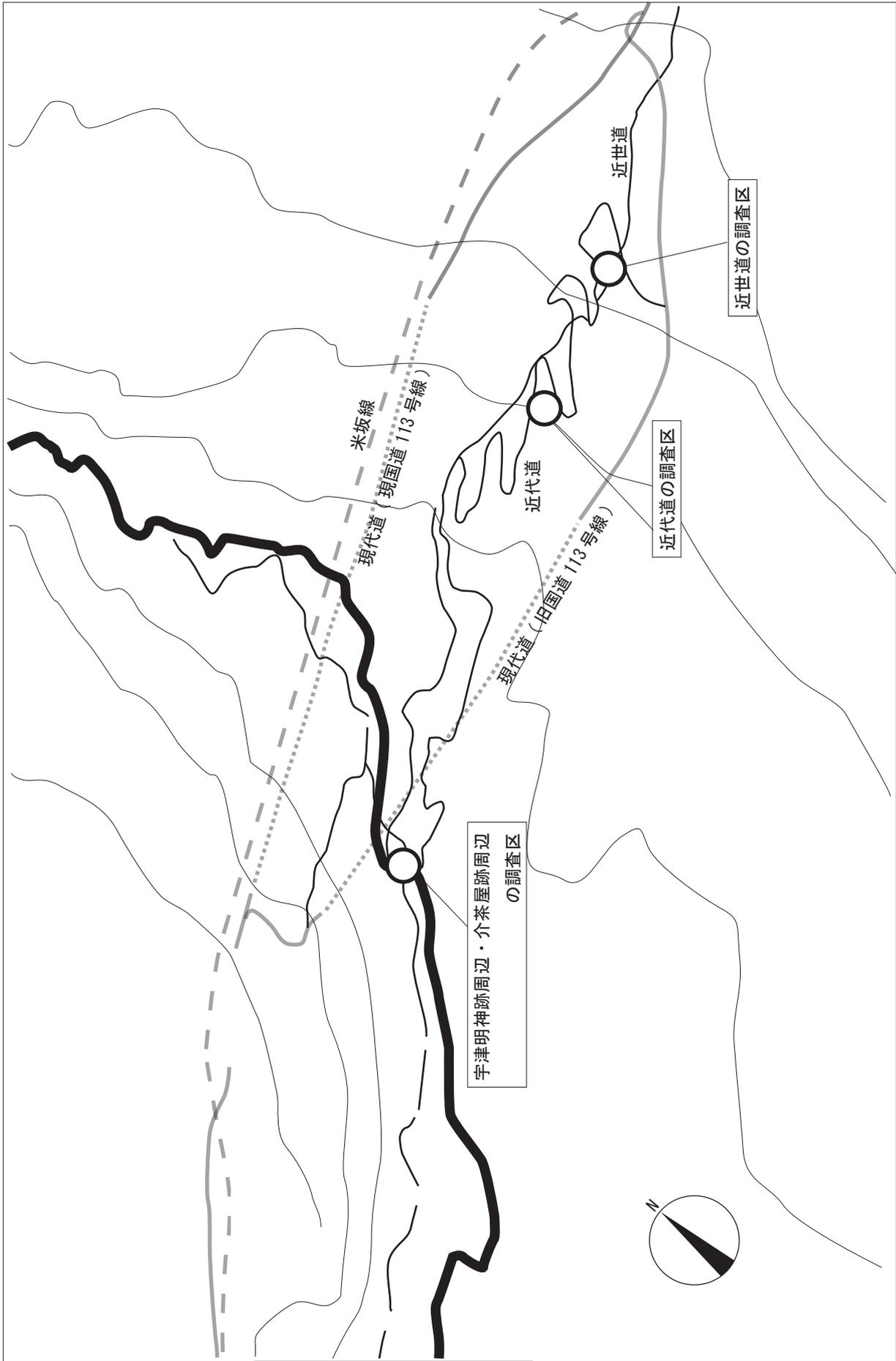


図 10 手ノ子地区におけるトレンチ調査の調査区

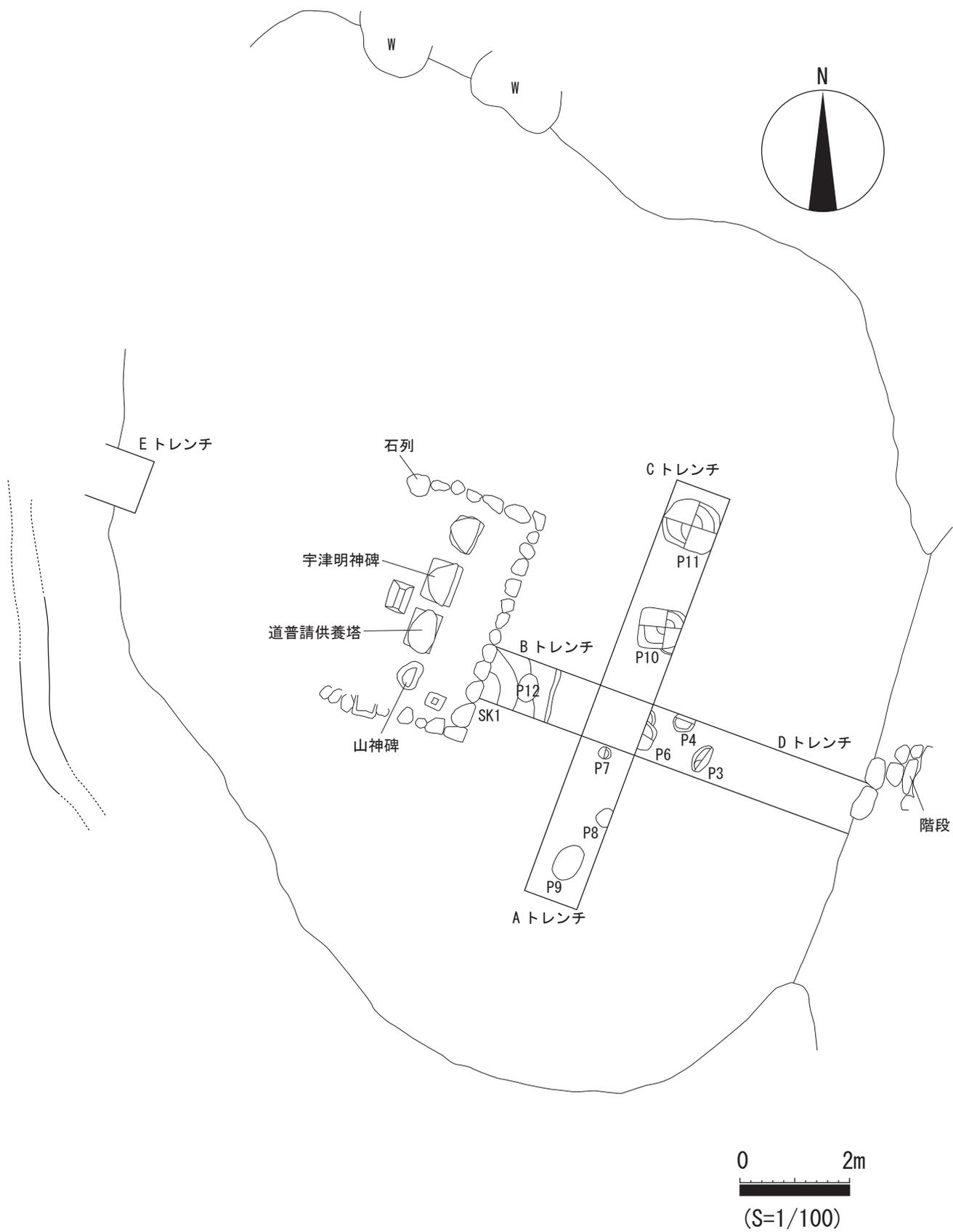
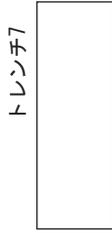


図 11 宇津明神周辺トレンチ配置図



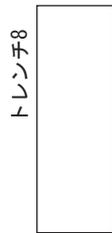
トレンチ7



トレンチ7



トレンチ7 頁岩剥片出土状況



トレンチ8

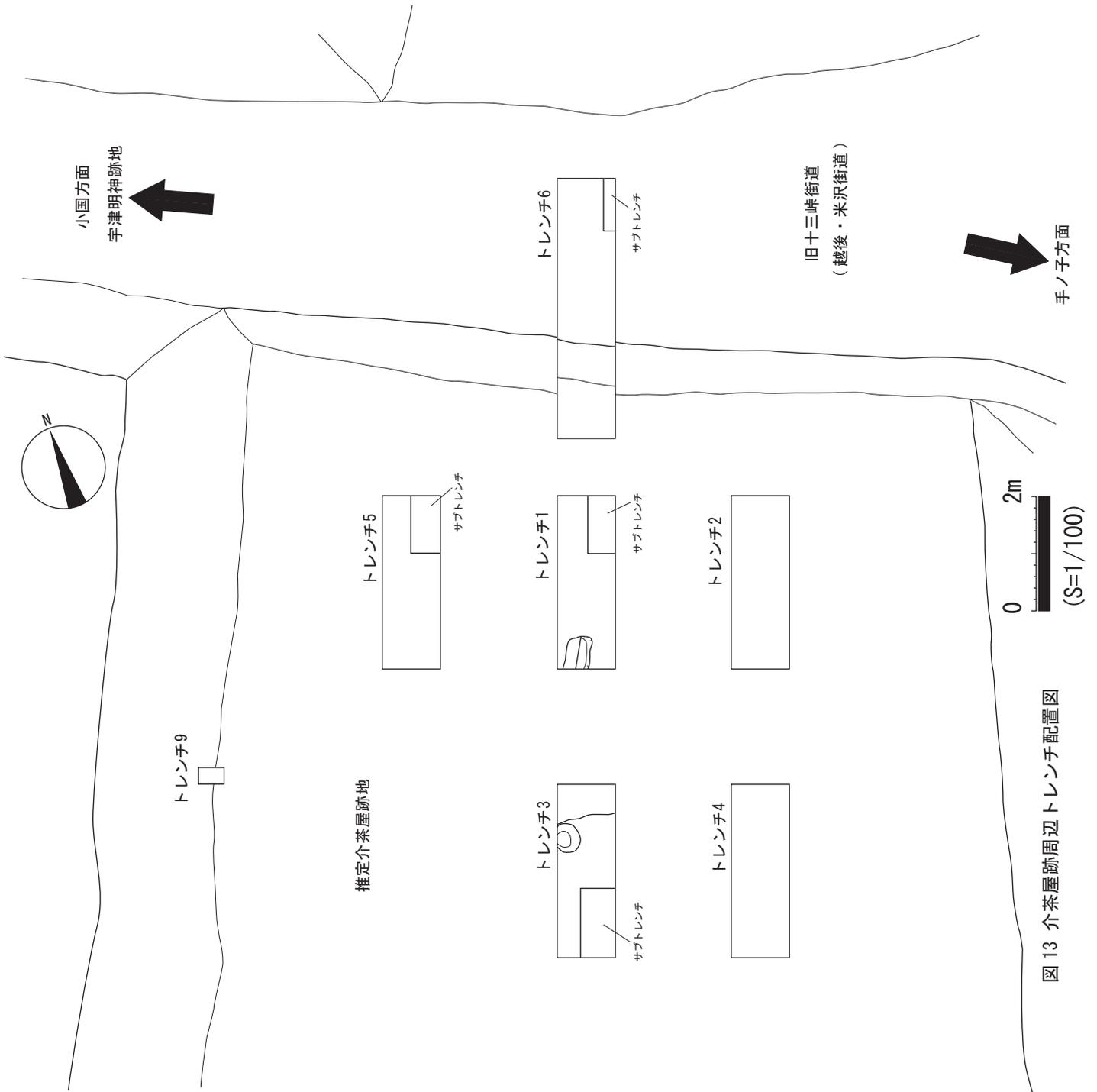


図 13 介茶屋跡周辺トレンチ配置図

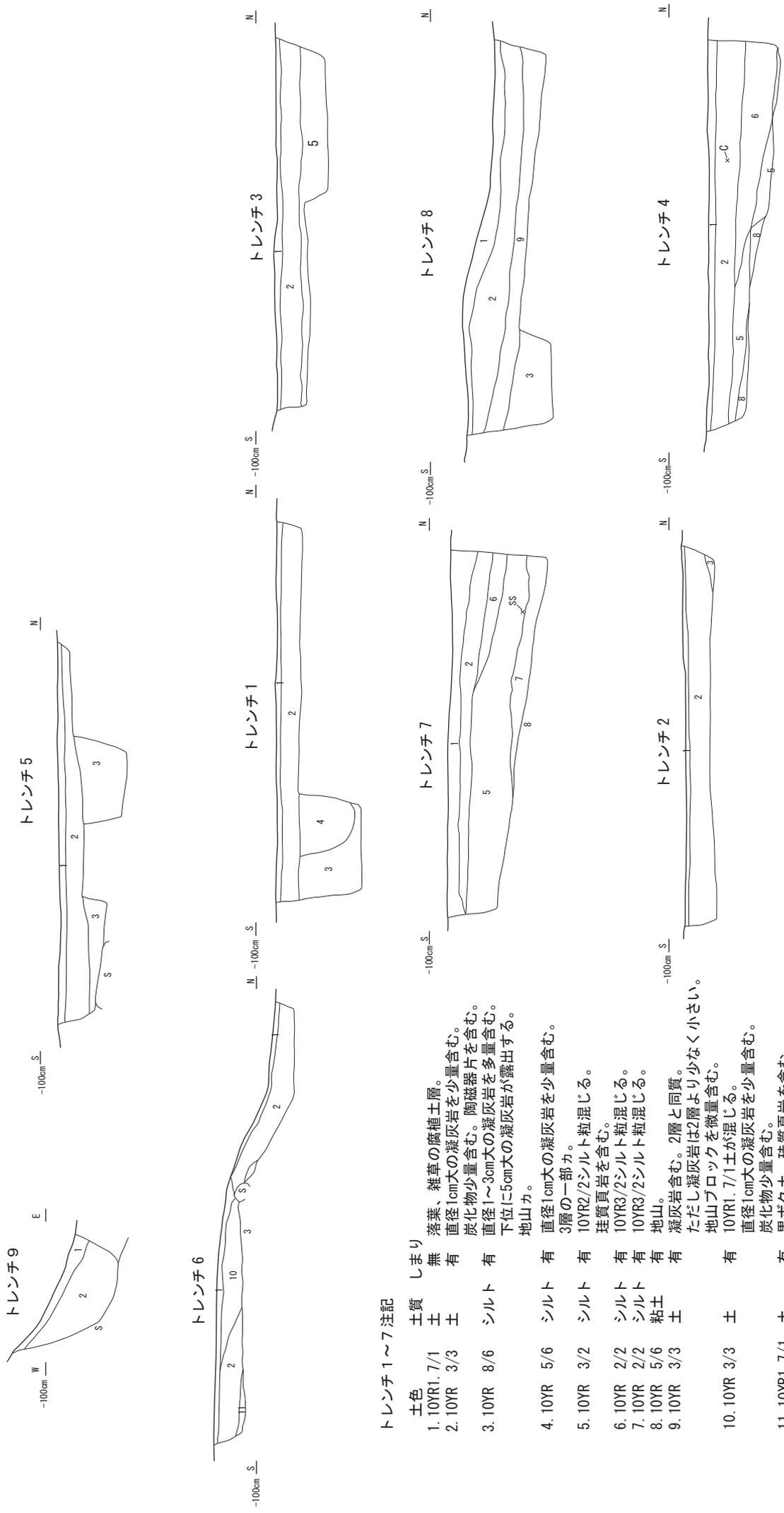


図 14 介茶屋跡周辺トレンチ断面図

※ML=介茶屋跡の前にある湯殿山障頂点

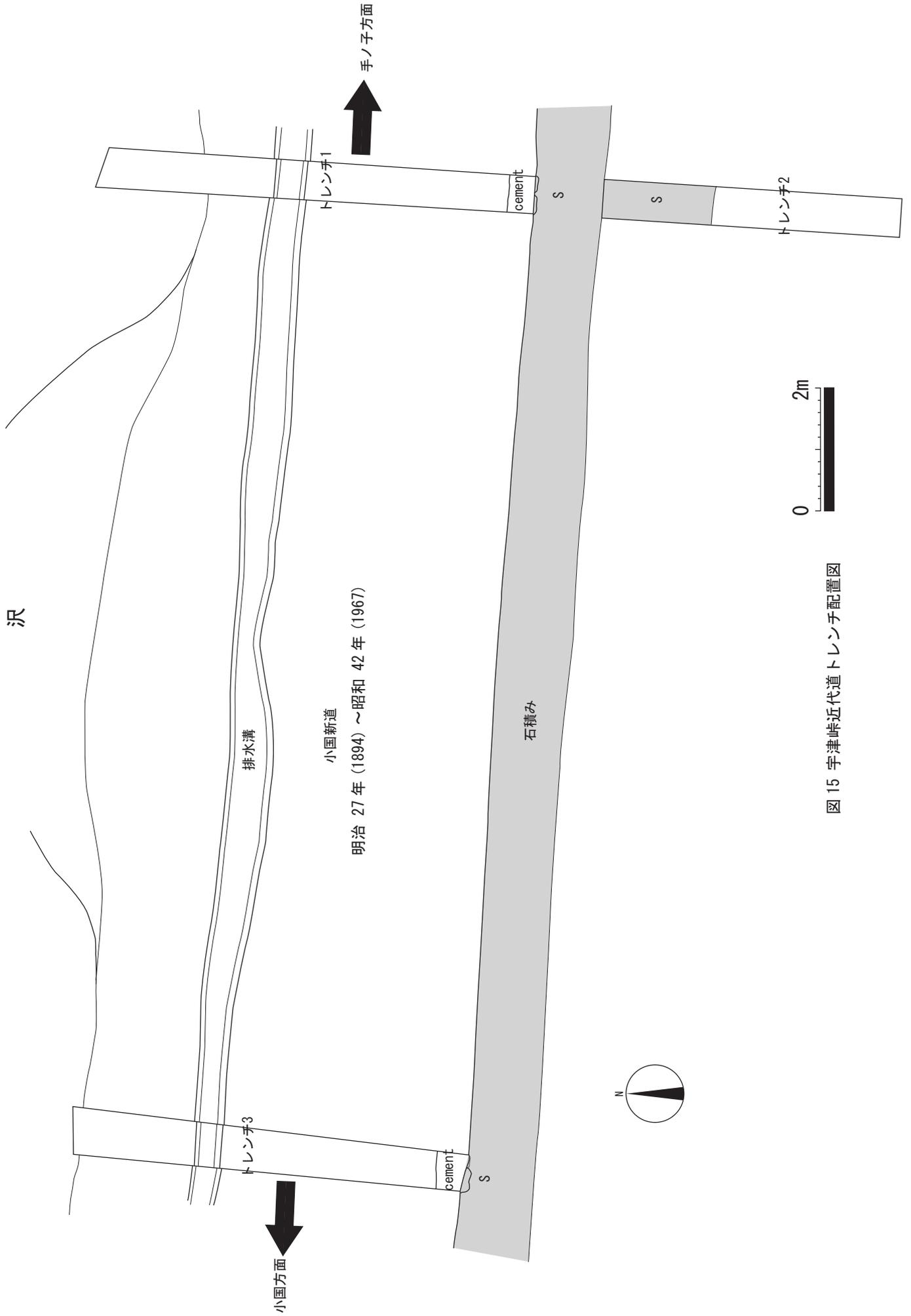
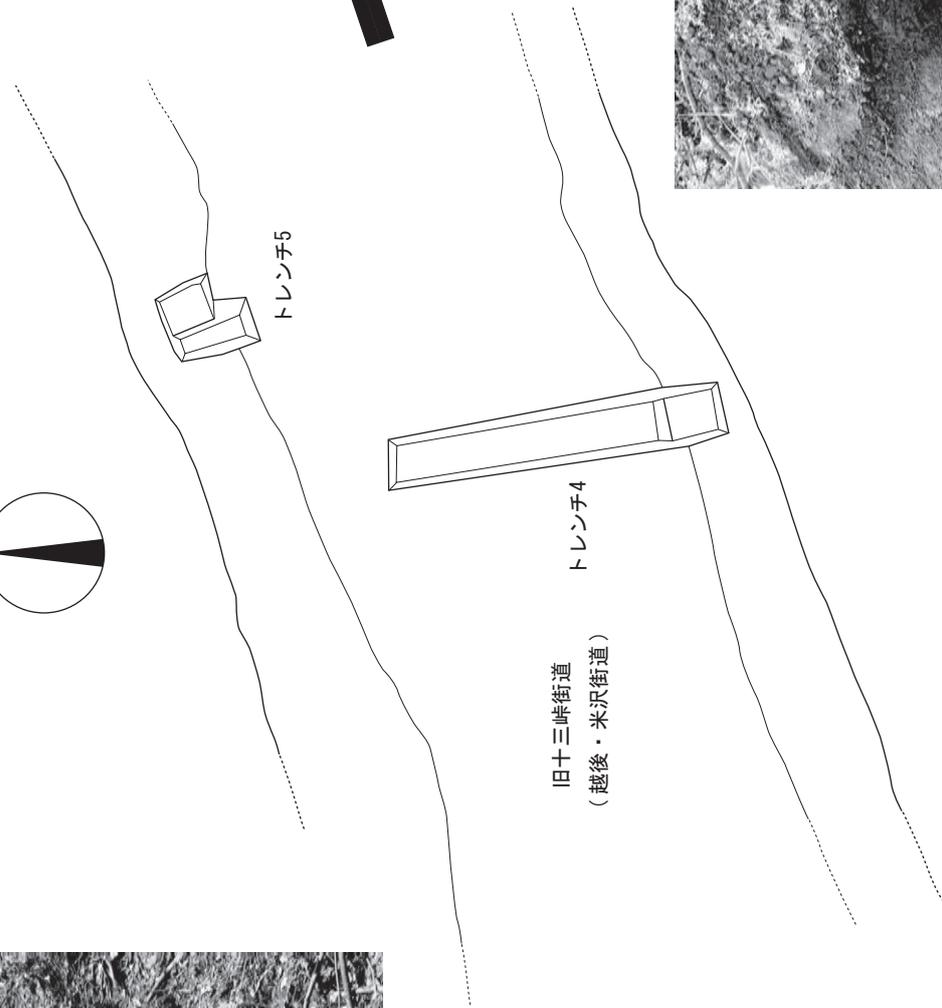
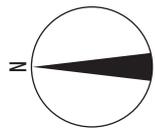


図 15 宇津峠近代道 トレンチ配置図



トレンチ4



手ノ子方面

トレンチ5

旧十三峠街道
(越後・米沢街道)

トレンチ4

小国方面



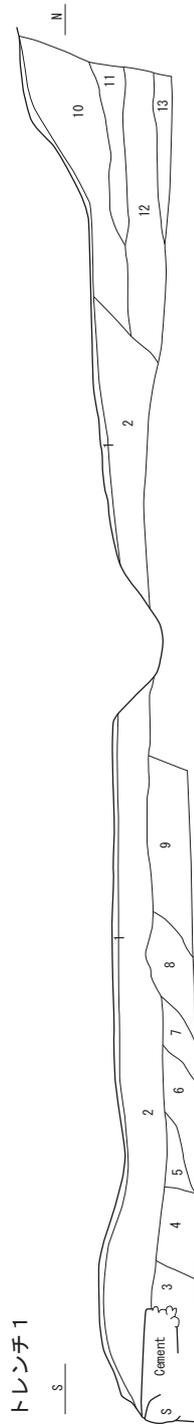
トレンチ5



(S=1/50)

図 16 宇津峠 近世道トレンチ配置図

トレンチ1



トレンチ2出土牛乳瓶

トレンチ1・2注記

土色	土質	しまり	腐植土層
1. 10YR1.7/1	土	無	玉砂利の層。10YR4/2土を多量含む。
2. —	礫	有	直径8~15cm大の礫層。石積みの裏込め層。
3. —	礫	無	10YR1.7/1土ブロックと砂粒を少量含む。
4. 2.5Y5/3	シルト	有	地山由来の砂層。
5. 2.5Y 7/4	砂	有	直径3cm大の礫を多量含む。
6. 2.5Y 7/3	砂	有	10YR2/1土ブロックを少量含む。
7. 2.5Y 4/3	シルト	有	砂粒を少量、炭化物を微量含む。
8. 10YR2/1	土	有	直径3~5mm大の2.5Y7/3シルトブロックを少量含む。
9. 2.5Y7/4	シルト	有	2.5Y7/3シルトブロックを少量含む。水性堆積。
10. 2.5Y6/4	シルト	有	2.5Y3/2粘土ブロックを微量含む。
11. 2.5Y6/6	シルト	有	11層の上と下に1cm厚の2.5Y3/2粘土層あり。水による流れ込みか。
12. 2.5Y6/4	シルト	有	均質。地山層。
13. 2.5Y5/2	シルト	有	腐植土層。
14. 10YR1.7/1	土	無	直径1cm大の礫を少量含む。
15. 10YR4/3	土	有	10YR3/3土を礫間に多量含む。
16. —	礫	有	直径1~3cm大の礫を少量含む。
17. 10YR6/4	シルト	有	直径1cm大の2.5Y7/6シルトブロックと10YR2/1土ブロックを少量含む。
18. 2.5Y5/3	シルト	有	直径1cm大の2.5Y4/3シルトブロックを少量含む。
19. 2.5Y7/6	シルト	有	直径1cm大の2.5Y7/4シルトブロックを含む。
20. 2.5Y7/6	シルト	有	直径1cm大の2.5Y3/2シルトブロックを含む。
21. 2.5Y5/3	シルト	有	直径3cm大の2.5Y3/2シルトブロックを含む。直径1cm大の2.5Y7/4シルトブロックと10YR1.7/1土ブロックを少量含む。
22. 2.5Y5/3	シルト	有	直径3cm大の2.5Y3/2シルトブロックを含む。直径3cm大の2.5Y7/4シルトブロックを少量含む。
23. 10YR2/1	土	有	直径1cm大の10YR1.7/1土ブロックを少量含む。
24. 2.5Y7/6	シルト	有	腐食土層。
25. —	礫	有	直径1~3cm大の礫を少量含む。直径2cm大の2.5Y5/1シルトブロックを少量含む。
26. 2.5Y7/4	シルト	有	直径5~1cm大の礫層。2.5Y5/3シルトが礫間に入る。

トレンチ2

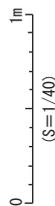
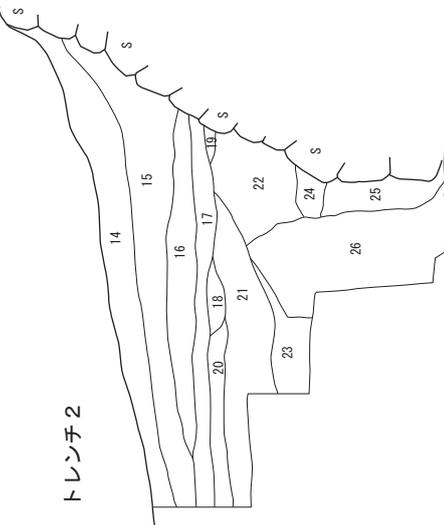
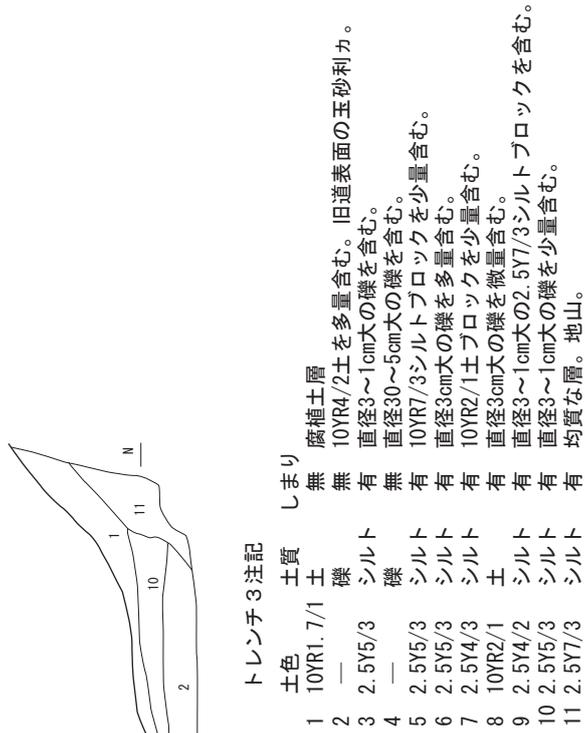


図17 宇津峠 近世道・近代道トレンチ断面図(1)

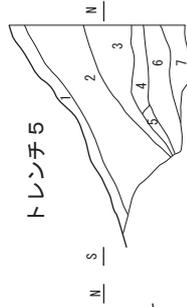


トレンチ3注記

土色	土質	しまり	腐植土層
1 10YR1.7/1	土	無	10YR4/2土を多量含む。旧道表面の玉砂利カ。
2 2.5Y5/3	シルト	有	直径3~1cm大の礫を含む。
3 2.5Y5/3	礫	無	直径30~5cm大の礫を少量含む。
4 2.5Y5/3	シルト	有	10YR7/3シルトブロックを少量含む。
5 2.5Y5/3	シルト	有	直径3cm大の礫を多量含む。
6 2.5Y5/3	シルト	有	10YR2/1土ブロックを少量含む。
7 2.5Y4/3	シルト	有	直径3cm大の礫を微量含む。
8 10YR2/1	土	有	直径3~1cm大の2.5Y7/3シルトブロックを含む。
9 2.5Y4/2	シルト	有	直径3~1cm大の礫を少量含む。
10 2.5Y5/3	シルト	有	均質な層。地山。
11 2.5Y7/3	シルト	有	

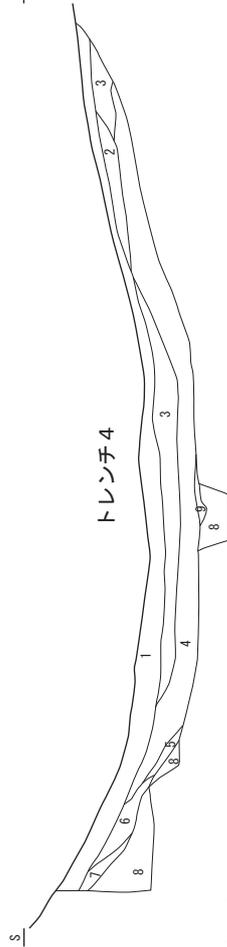


トレンチ3断面



トレンチ5注記

土色	土質	しまり	腐植土層
1. 10YR2/1	土	無	腐植土層。
2. 2.5Y5/4	シルト	有	地山粘土が混じる。
3. 2.5Y6/3	粘土	有	地山に類似。
4. 10YR1.7/1	土	有	腐植土層。
5. 10YR2/1	粘土	有	腐植土層。
6. 10YR1.7/1	土	有	腐植土層。
7. 2.5Y5/3	粘土	有	地山。



トレンチ4注記

土色	土質	しまり	腐植土層
1. 10YR2/1	土	無	腐植土層。
2. 2.5Y5/4	シルト	有	水性堆積層。
3. 2.5Y5/4	シルト	有	砂との互層堆積。
4. 2.5Y4/4	粘土	有	砂との同色。礫子を含む。
5. 2.5Y4/3	シルト	有	2層と類似。黒色土のブロックが混じる。
6. 2.5Y3/1	土	有	4層と類似。黒色土のブロックが混じる。
7. 2.5YR4/3	粘土	有	地山粘土のブロックが混じる。
8. 2.5Y7/6	粘土	有	地山。
9. —	礫	有	2.5Y6/2粘土が混じる。

図 18 宇津峠 近世道・近代道トレンチ断面図(2)

報告書抄録

ふりがな	いいでちょうないいせき はくつちょうさほうこくしょ							
書名	飯豊町内遺跡発掘調査報告書(2)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	飯豊町教育委員会埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第6集							
編著者	高橋拓							
編集機関	飯豊町教育委員会							
所在地	山形県西置賜郡飯豊町大字椿 2888 番地							
発行年月日	2017年3月31日							
ふりがな 調査地・遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
萩生地区・ 萩生城跡周 辺	やまがたけん 山形県 にしおきたまぐん 西置賜郡 いいでまち 飯豊町 おおあざ 大字萩生 1380-3	403	056	38度3分49秒	139度59分12秒	2016年 6月 ～ 2017年 2月	79.5㎡	分布調査
手ノ子地 区・宇津峠 周辺	山形県 西置賜郡 飯豊町 大字手ノ子	-	-	-	-	2016年 4月 ～ 2017年 3月	81.6㎡	分布調査



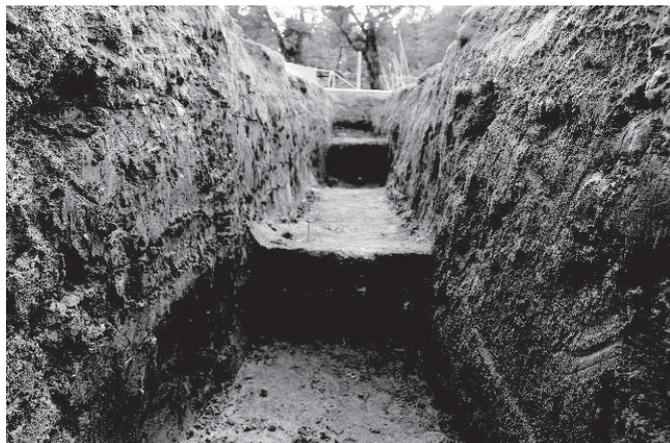
萩生城 J トレンチ 全景



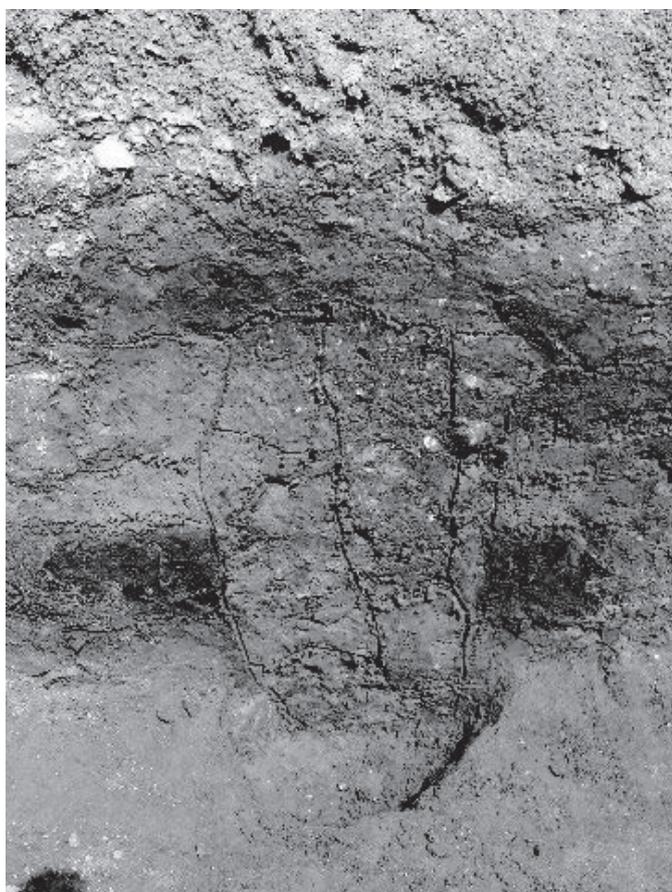
萩生城 J トレンチ SW-2



萩生城 J トレンチ SW-1



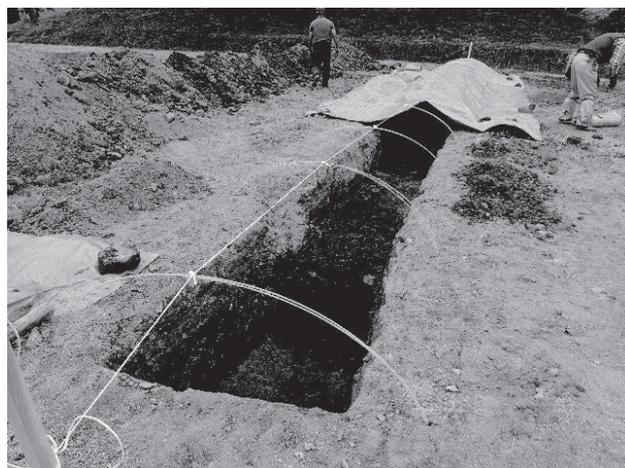
萩生城 K トレンチ



萩生城 K トレンチ P5



萩生城 K トレンチ SK1



萩生城 L トレンチ



萩生城Nトレンチ



萩生城Oトレンチ



萩生城Mトレンチ 遺構検出



萩生城Mトレンチ 遠景



萩生城Mトレンチ 遺構半裁



萩生城Mトレンチ P5



萩生城Mトレンチ P7・P8



萩生城Mトレンチ P7・P8 出土焼土・炭化物



萩生城Mトレンチ P7・P8 出土土壁



萩生城二ノ丸 土塁



萩生城二ノ丸 トレンチ 1



萩生城二ノ丸 トレンチ 1 礫層



萩生城二ノ丸 トレンチ 1 P1



萩生城二ノ丸 トレンチ 1 P1 出土焼土



調査説明会



宇津峠 宇津明神跡地



宇津明神跡地 トレンチ C P10



宇津明神跡地 トレンチ B SK1



宇津明神跡地 トレンチ C P11



宇津峠 介茶屋跡 トレンチ 6



宇津峠 介茶屋跡



宇津峠 介茶屋跡 トレンチ 8 出土磁器



宇津峠 介茶屋跡 トレンチ 4 出土頁岩・土器片



宇津峠 近代道石積全景



宇津峠 近世道・近代道トレンチ 1



宇津峠 近代道調査状況 (山形大学協力)



宇津峠 近世道・近代道トレンチ 2



宇津峠 近世・近代道トレンチ 2 西壁



宇津峠 近代道石積根石



宇津峠 近世道サブトレンチ断面

